ごねんごのすくみずはどんなかな

川鵜鶏肋春屋アロッ Fukapon なぎ Lagado (REATURE MIXING) mnfikmyhk

NEXT VOL1 / VAY 2013

mCMX編集部ではあなたの作品をお待ちしておりますよ。「5年前も5年後もここにいるよ」系サークルにもほどがある、全く変わってねぇよ! てことで、新風大募集。

若返りの薬

とゆーテーマで次の作品を募集中。。 2013年5月発行予定。もう COMITIA はないかも。 締め切りは当日00時、だいたい02時ぐらいまでは楽勝。 コピー本だからさ、ノリで書きましょうよ。

http://www.projectkaigo.org/

詳細はそのうち、ウェブで告知します。 やり損ねた5周年企画とか考えようかな。

mnfikmyhk CREATURE MIXING 10

今こそ買い! 水着○学生

2012年11月18日 初版発行

発行所 まにふいくみやはか

http://www.projectkaigo.org/

印刷/製本 project KAIGO

Copyright © 2012 川鵜鶏肋, 春屋アロヅ, Lagado, Fukapon, なぎ, まにふいくみやはかこの本は Creative Commons 「表示 2.1 日本」 ライセンスに従い頒布されます。 詳細は http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/ をご覧ください。

12月に走れば間に合う?

川鵜鶏肋

ラスト1ヶ月、仕事が忙しくて死にそうでした。気がついたらもういつ雪が降ってもおかしくない感じに。落ちなくて良かったー。今回はプロットが出た瞬間にタイトルが決まっていたので助かりました。いっつも最後に頭を悩ますんですけどね。例によって過去作とリンクしております。よろしければまとめて読んでやって下さいませ。

春屋アロヅ

○学生ではなく高校生ですが……だ、だめ?

http://third.system.cx/

Fukapon

またやってしまった……。しかも姫カットに続き、本当に、全く、推敲していません。ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。ちなみに冬コミの衣装も未着手。来年と言わず、来週からいろいろ考えたいなぁ。子を殺されて笑ってる親はいないだろう?

http://www.fukapon.com/

なぎ

テーマは数が多すぎて難しかったですね。といいつつテーマを守れておりません。テーマを聞いたときは夏前だったのでちょうどいいと思ってましたが今は部屋の中が寒すぎる。 次回は発刊時期に合わせたテーマにしましょう。

Lagado

「ニーソックスと生太股の境でむっちりと強調される肉付き」を愛好する者を敵視する意 趣ではありませんが。

http://www.k3.dion.ne.jp/~lagado/

レイアウト

入稿の手引きの加筆を忘れてた。次こそ。

元気だったら次から、絵文字入れられるようにします。って言っちゃった。

http://www.projectkaigo.org/

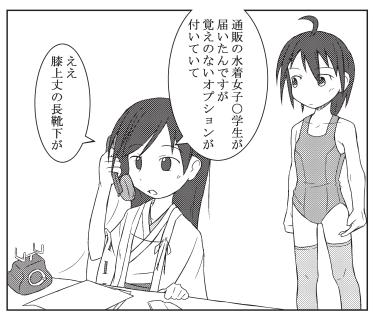
CONTENTS

私を海に連れてって	川鵜鶏肋	02
Swimming Suit Battle	春屋アロヅ	48
魔法少女と魔法と少女	Fukapon ·····	52
サイズオブスクール水着	なぎ	58
兎角亀毛	Lagado	60
もうすぐ冬ですね		Х3

今こそ買い! 水着○学生

mnfikmyhk CREATURE MIXING 10

兎角亀毛 Lagado





安全で簡単な仕事です。道具の使い方も一からレクチャー やる気のある人材求む。南の島で迷惑生物を追い払うお手伝い。口車に乗る、という言葉の意味が、生まれて初めて実感された。 木る、 -します。

各種手当厚遇あり、保険完備。

の尽き。 商工会から回 ってきたチラシの お 1, しい文句につられ たのが 運

だったのだ。各種手当、イコール危険手当に違いない。安全な仕事に保険完備なんて強調されている時点で怪し むべ き

「ばかばか私の馬鹿!」

口の悪い上司様の合図に従い、半泣きでG3小銃の引き金を絞

る。目標は視界に入れたくもない。

「そこのパー子!」

「ひゃあい!」

こわぁい上司様の声が飛 んでくる。

「撃つときに目をつぶるな! それから いちいち悲鳴を挙げる

「馬鹿野郎、目をそらして敵が殺せるか!」だって、自分の作った死体など見たくない。「だから口を開かず目を開け!」「ごめんなさーい!」 い

追い払うだけって言ってたのにし

虫殺すのも薬物専門で、 どっか見えないところで死んでくれる

って直接手を下すなんて。

2

「殺されたくなけりゃ、こっちが先に殺すしなかないだろう!」「こんなのわたしのキャラじゃありませんって!」

「石丸さーん!」

呈するが、 童顔に似合わず発言の殺伐とした上司 べ 無駄を承知で苦言を

「いいから撃て! 撃ちまくれ! いい から目を開けて状況をよ

く見てみろ!」 無駄だった。

無駄だった。いろいろと。怒声に後押しされるように恐る恐る目 を開け

る

「だいたいアレ死んでませんよ!」

攻中。 頑強な殻に包まれた迷惑生物の群れ は 猛攻に もたえて絶賛侵

石丸さんの身振りによる合図で、ラ「だから死ぬまで撃ちまくるんだ!」

の水しぶきが上がる。 0 ㎜グレネードが一斉に発射され、 敵陣真っ直中で炸裂。数十本ライフルに取り付けられた4

「今だ、撃て!」

も危険生物)のうちの何体かが動きを止める。体勢を崩したところに一斉射撃。迷惑生物 5 かどうみて

「いいぞ、ロケットか対物ライフル なら薄 弾でもいけるな」 いところなら抜ける。

「それどんな確率ですか!」同じところに二発当てればNATO

「そこらへんは手数でカバーする しかないな

何を言っ て いるの かわからないが非常に危険なことは理解でき

るから安心しろ」 「お前という存在 はい つ たん消滅するが、 再構成して生まれ変わ

ことは死んだも同然だ。 そんなこと言われて納得できる わけがないだろ。 消滅するっ て

らうし 「説明不足は認識しているが時間がな 1) の で転送を開始させて

おい!やめろ」

と意識を失った。 女が発音できない言葉を発すると自分は白い光に包まれて段

な 「あんな縁がなさそうな男でも意外と情報量を持っ ているも 0)

した雑居ビルの中には変わらずFMラジオが流れていた。古びたところ狭しとおかれていた制服や水着達がなくなってガランと アを鳴らし て魔法少女は立ち去ってい

魔法少女が言うことだ。 「願いと言っても私がかなえられるのは何かに生まれ変わりたい 「どんな願いでも良いのか」 続けて提案して来たが俺は半信半疑だっ 女は商売の基本を覆すようなことを言い放った。 ヤ顔でいわれても困るのだが。 代わりにお前の願いをかなえることができる」 た。 何せ秘書風の自称 そんなことを

「当然ながら私はこの世界の金品を持って

いない

という願いだけなのだ」

んな商売はせずに楽に暮らしたいものだ。 生まれ変わりか。芸能人や支配階級でもいいのか」

るの

ならこ

「生まれ変わりか。芸能人や支配階級でもい

うだな、 「理論上はどんな存在でも可能だが、今回は時間も あの水着の学校の生徒にしてやろう」 ない 0 で。 そ

ば金持ちとか金持ちとか。 生まれ変わるにしてももっとましな提案があるだろう。 たとえ

くらいしか思いつかなくてな」 「そういっても時間もないしお前と因果のありそうなものがそれ

っちかにしてくれ」 「そんな提案は受け入れられないな。金を払うかあ こんな店で働いているが女子学生になりたいという希望はない。 きらめ る

これ以上妄想につきあっ てはい 5 n な () すると女は思い

量を送る必要がある。 一つ説明を忘れてい あたりには他にだれもないのでお前を転送た。敵にとりつく因子と同時に大量の情報

って売買情報が入ってくる時間には早い谷間の時間帯だから基本この時間は外出中に店に寄るクライアントが減って、授業が終わ 的に暇だ。 の香りを嗅いでいると仕事中のモードになるのか不思議と集中 い、それを打ち消すように芳香剤の香りが広がっている。芳香様々な家から持ち込まれた色とりどりの制服たちに染みついた 集中しているのは仕事じゃなくでゲームなんだけど。

顔を流れこわばるのを感じた。女はスーツを着ておりOLというくるのが見えた。休憩モードだった気持ちが切り替わり警戒感が よりも秘書風で、この商売の敵の警察官にも見えたからだ。 しか確認するために少し入り口を見てみるとOL風の女が入って てもいいのもこの商売の利点の一つかもしれない。常連か冷やか の準備をすればよいのだ。「いらっしゃいませなんて」言わなくな音とたてて開いた。呼鈴代わりにしているドアが開いたら接客長らくメンテナンスなんてしていない自動ドアが引きずるよう

情で何かを探すように商品を見てい 女はブース内にいる自分の方に向かってくることなく、 た。 堅い表

「何かお探しですか」

使い分けるのが面倒だというのもあるが。いかに怪しくてもお客様として扱うのが俺の ポリ シ 1 だ。 単に

「あれだな」

女は水着コー ナーに掛けられ た一つの水着を指さし

「旧スクール水着ですか」

ル水着というのかあれは

商品の情報量がこの商売の価値なので商品知識は滑るように 出

58

している学校の生徒から買い取った本物で非常に価値があるもの「以前は広く学校で使われていたタイプの水着で、現在でも採用

満たしているようだな。その水着をいただきたい 「なるほど、良くはわからないがこちらが必要としている情報説明を理解してくれたかはわからないが女はうなずいた。 は

「なぜ水着を買われるのですか」

「詳しくは知りませんが、体や細菌の因子に働きかけることで機ニズムを知っているか」「そうだな、説明するのが難しいのだが薬が効果を発揮するメカ「そうだな、説明するのが難しいのだが薬が効果を発揮するメカのポリシーの一つだが、素朴な疑問が出てしまった。

能するんでしたっけ」

す因子だ」 「わかってるなら早いな。 私たちが探しているの は世界の敵 を倒

倒すことができることが判明してからは因子を捜索することが仕 事になっているそうだ。 を倒すことをしていたが、適切な因子を使用することで効果的 女が語るには彼女は魔法少女のような存在で以前は物理的に に敵

られないが、値札を確認して商品の金額を伝える。女(魔法少女といった方がいいのだろうか)の語ることは信じ「えっと、こちらの商品ですが一万円になります」「つまりはその水着が今回の敵の因子として必要なのだ」

「その数でも負けてるんですけどー

数百体はくだらない。 ^の巨大なヤシガニを思わせる危険生物は、ぱっと見ただけでも横陣をなし、浜辺に向かって脚を進めてくる。三メートルばか

今のままの効率では、数分以内には上陸を許す事になるだろう。対して、迎え撃つこちらはわずか一個中隊。

接近戦であんなのに太刀打ちできるとは思えない

たSADARMを、155㎜榴弾砲かできればMLRSで撃ち込「出来れば近接航空支援か、例えば……例えば自己鍛造弾頭積ん 「手持ち武器でどうこうできる範囲を超えてる気がしますけど」 この状況で必要なのは装甲貫徹力と瞬間的な広範囲制圧力。

だSADARMを、

理をして……詳しいな」 「そんなものがそうそう持ち込めてたまるか。 これでもかなり無

「いえ、ミリオタな兄の受け売りですけど」

別に専門家でなくてもそのぐらいは想像できる。

えない。 金属音と火花を残す **|属音と火花を残すばかり。正直、あまり効いているようには見先ほどから撃ち込んだ銃弾の大部分は、頑丈な甲殻に弾かれて**

は困難だ。 ケットや連射の効 ガ =)効かない対物ライフルで薄いところを狙い撃つ(仮)の動きはおそろしく素早い。速度の遅い

発言に、同僚達の視線が集まる。 既にピンチといってもいい状況にも動じた様子の「確かに。これではらちがあかんな」 な い 上司様 0

皆一様に釣り人 っぽい格好はしているが、 手に手に持ってい

> なかった。 П ーッドケー スがこれほど偽装向きとは思いもよら

た。 さんならきっと何とかしてくれるだろう、という期待そんなコワモテのごついオジサン達の視線は、百戦 百戦錬磨の石 内に満ちて

石丸さんは余裕を崩さ X 2自信満 々 の態度で、

と、千羽の肩に手を置いた。「よし、頼む」

す鬼憑きとも、 す鬼憑きとも、微力な呪術とも違う、本当の意味での人間の味「そう。彼女こそ我々の切り札、赤枝の巫女。本質的に人に仇それとともに、皆の視線が一斉にこちらに移動してくる。

ほどなく、 ほどなく、理解が追いついてくる。一瞬、何を言われたのか分からなかっ た

「いやいやいや石丸さん、それ買いかぶり」

痛すぎ!

根拠もなく美辞麗句で持ち上げられても困ってしま

見てよこの期待しまくった顔、顔「わ、私に何を期待してるんですか ?? !?

「一発逆転」

「そういうの出来るんしょ 「マップ兵器 ? チ ハ たん

「無理無理無理!」

あとドサクサでチハたんとか呼ばないで欲 L

「赤枝家のみんながみんな千綾さんや千景ちゃんみたいな天才じ

逆ギレの集中砲火の中にも、 千羽の味方が い た。一人でも二人

4

「そうだ、チハたんを悪く言うな」「マスコットとしてはなかなかのものだと思わん

「どうもありがとうございますほんと光栄の至りですわーいうれ

「またまた謙遜を。どうせかなり使えるんだろう」ましてや、こんな戦闘に使えるような技術なんてとてもとても。

「あと二回ぐらいは変身を残してたり」

「赤枝って斗流十家からも一目置かれる戦巫女の家柄っ 7 聞い 7

しいな」

期待した自分が馬鹿でした。駄目だこいつら、

早く何とか

「神の力を借りるとか、 ら神そのものを招来とかできるんだろ

までもなく、呼べるのとコントロールできるのはだいぶ違う。 勝手なことを言ってくれる。又従姉妹の千緋ちゃんを例に引く

「DNAの効果には個人差が ありますっ

意外な弱点を的確に見抜くとか」 でも、 少しぐらい何か出来ることがあるだろう。 奴らの

危険生物の群れは味方の損害にも速度を変えず、痛みとか恐怖心とか、それに類する感覚が無い

今この瞬間もいのだろうか。

も砂

浜に向かって侵攻を続けている。

「諦めない

で!!

誰かどうにかしてよ、

あの

t

シガニ

の大軍

か

ないな。とりあえず射撃再開!」「この際見た目は何の役にも立たん。使えないものは諦めるし

石丸さんが食い下がってくるが、

「今この場で役に立つようなことは、 これ 2 ぼ 2 ち

断言してやった。

それで、皆の態度が露骨に変わった。「私には神様の声なんか聞こえません。 植物の声で精一杯です」

ハズレ引いたっしょ!」

「使えねー!」

ろくに目的も言わずに引っ張り出してみれ「やっぱりパー子なのかよ」 ば _ 族の落ちこぼ

だったといったところか。

確認不足を棚に上げて勝手なものだ。

「仕方ないな。おい真田」 「アニスアルファリーダーよりH 無線機を背負った隊員が、石田さんに駆け寄 Q 9 て背を向け

『こちらHQ。アニスA、何があった?』

石田さんに応えたのは、冷静沈着な声。

援を要請する」 「足止めに徹してはいるが、絶対的に火力が不足だ。 近接航空支

返事は得られておりません』 『駐留米軍とは現在交渉中ですが、 残念ながら今のところ色よい

「このままでは上陸を許すぞ。装甲目標を小火器では止められ

女は去って行った。 昨日とはまるで別人の彼女に月は戸惑うも、 声をかける前に彼

おしゃべり好きな女子校故、それだけならば麗華も月も驚かな 「麗華事件」が学校中に広まるのに、数日とかからなかった。 しかし、事態はそれだけで済まなかった。

しの君 アドベントカレンダー殺人事件、イヴに狙われたのはお漏ら

る。 月の目の前に置 か れ た学校新聞には、 派手な見出しが躍 って い

「月はどう思う?」

は麗華だ。 まだ人が残る高等部に、 モーゼが如く人を割ってやってきたの

に彼女を迎えている。 誰もが麗華から離れようとする中、 月は今日も、 微笑みととも

「どう思うって、 どういう意味?

「本当に起こると思う? 気にならない?」 って意味だよ。 味だよ。月だって疑われてるんどうして私に聞くの?」

書いてあった。 熱っぽく語った麗華がポケット から取り出した紙には、

一二十四日、

されていた。 この一週間、 日付と名前だけがお野原美羽 書か れ た紙が、 学校中か ら発見

いたが。 たが。ふと誰かが気付いてしまった。三日目まではその数もかなりのもので ので、 不可解なものとされて

名前を書かれたものは必ず、 事故に遭っている

「ねえ、麗華」

月は予告状から視線を外すと、麗華を見据える。

う ? 「何か知ってるの? あなたがや ってるわけじゃな V 2 でし

まるで美羽と対峙したときのようだった。 一方の麗華は、未だ笑顔を保っている。夕闇迫る教室の中、月の表情はついに、 険しいも 8 そ 0) の口調は、

る 「知ってるよ。月が麗華を、魔法を信じてくれる なら、 止めら

「わかった。 彼女が言い終えると同時に、 月は周りに飲まれることなく、険しい 麗華を信じる。魔法は、わからないけど」(飲まれることなく、険しい表所のままに席を立 教室は色めいた。

麗華は再び道を開くと、 麗華を連れて学校を出た。

「ありがと。それじゃあ、

来て」

「そうね。好きにしたらい いわ

少女は歪んだ表情の中に、嘲笑を浮かべた。放たれた言葉とともに、月を打つ水流が強まる。

一方の月は、 正面の少女など意に介さず、 背後の濡れ鼠の手を

「行こう」

手を引かれて歩み出した。 真っ青な顔は俯いたまま、頷くこともない。 そ のまま、 彼女に

今日も全身、上着どころか下着までしっかり濡れてその場を離れ水を撒く少女から離れ、水流の的が顔から肩、背中へと移り。 ようとしたとき。

背後の声が、突如くぐもった呻きを上げた。

あった。 月が振り向くと、彼女と入れ替わるように、 見覚えのある顔が

「喧嘩なら麗華が買ってあげるよ。 喧嘩の売れ残りがあればだけ

たかも知れない。しかし今、彼女の足下には、まさに右足の下に無邪気な笑顔だけだったならば、その意味を誰も理解しなかっ 彼女は言葉を切る前に、ホー -スの根元へと視線を飛ばす。

すぐさま水は止まり、麗華は足を外した。 そのまま屈むと、 Ħ

の前の少女に手を差し伸べる。

形のよい頭がある。

「保健室、行く?」

少女は麗華の手を取ることなく、 かとい って手を払うこともで

きずに、己で立ち上がる

然のことにおびえていた。視線が差し伸べられた手の方を向くこ。泥だらけになった顔に浮かんだ瞳は涙を流すでもなく、ただ突 とはない。

麗華は実に不満げに言いながら、中等部らしく膝丈のスカ「ぶー、麗華のこと無視しないでよー」 1

をたくし上げる。

伸びた細腕がその内腿から何かを引き抜くと、手露わになった白い肌には、不釣り合いな黒のガ り抜いた。 手首でく ペーター。 V スッと つ

を上げた。 パタンパタンと黒い棒ができあがる様を見て、 月がようやく声

「だぁめ。痛いことはしないけどね」「やめて、それ以上はやめて」

程なくして、泥だらけの少女に変化が起こった。麗華は月の声に答えながらも、すでに虚空に円を描 い 7 る。

「え? えっ?」

水源は、足を伝った上流、スカー 戸惑ったような声とともに、彼女の足下には水たまり ートの中。 が 2できる。

「麗華だからお漏らしで済んだんだからね。もうやめた方が

を消す。

彼女は半ばパニックに陥る麗華から視線を外すと、

途端に笑み

気も冷たい。 月たち二人の方に向けられ たのは無表情だっ

「次は麗華も怒るからね

通信相手が替わった。

まだ幼いと言っても良い、少女の声だった。

ば可能。 の座標を伝える』 『ここで焦って予備戦力は動かせないが、 精度には期待できないが、それで構わないならおおよそに焦って予備戦力は動かせないが、限定的な支援攻撃なら

な限り水辺から距離をとること』 『着弾予想時刻は二分後。着弾地点はおよそG6-M15間。「感謝する。エリアNW、ゾーンJ9-12を狙ってくれ」

「アニスリーダー、了解」

通信を終了した石田さんの額には、 汗が伝っ 7 V

「あの、石田さん?」

おおよそって何?

「総員後退! 全速力で波打ち際 か ら離れ ろ! お前 いもだパ

「ふえっ!?」

さんに、引きずられるようにしてついていく。 手首をつかまれた、そのまま防波堤上を全速力で駆け出 す石

田

「とにかく走れ! 死にたくなけれ ばな」

「ふ、ふぁいっ!」

て浜辺まで巻き込むなど考えにくいのだが……器の着弾精度がそこまで大雑把とは思えない。 しかし、下手をするとセンチメートル単位で制御できる現代兵本当に榴弾砲か多連装ロケットでも持ってきているのだろうか 海中の相手を狙 9

「伏せろ!」

い被さるように押し倒 され、 灼 けた砂浜に押 L 9 けら れる。

が 見えたような気がした。 その直前、真っ赤に赤熱した何かが遥か頭上を横切っ

かんぞ。我が合衆国の国土をわずかなりと損ねることはならん。「知事閣下の抱き込みには成功したようだがな、我々はそうはい G 島駐留部隊の司令官、 **亅**少将は顔を真っ赤にして唸って

『まったく、まさか隕石が一度に三つも落下とは驚きましたが、それが彼女の上陸を許可する条件だったはずだ」

電話の相手は流暢な英語で、さも気の毒そうに言う。お互い人的損害が無かったのは不幸中の幸いでしたね』

「何をしらじらしい」

できねばどうしようもない。 偶然であろう筈がない。彼はそう信じ Ē いたが、 常識的に証

ーなら人為的って事もあるかもしれませんけど』 『とは仰いましても、 自然の流れ星ですしねえ。 ス ~] ス コ 口

り連中と交戦とは何事かね」 「君が言うとおり、 アレがまったくの偶然だとしてもだ。 7 きな

筈です』 ありますので。 『仕掛けてきたのは向こうです あらゆる危険は我々の手で排除すると申し上げたのは向こうですから。生徒の安全に対する責任が

なわん。さっさと君らを拘束してつまみ出すの「まるで蜜に群がるアリだな。こちらにまで目 とは思わんかね」 が、つ ーゖ 番手 って 取は ŋ カュ

かに同盟国といえど、 無体な為しようには、 精 杯抵抗 Z

5

「脅迫する気かね?」

同体なのです。 られかねません。ひとたび上陸を許可した時点で、私達は運命共『彼女が奪取されれば、マリアナ諸島そのものがルルイエに変え それでは、ごきげんよう』

「……女狐めが」

きの音、 凄かったね

「貧っきの たってさ、 ほら速報出てる」

テルのロビーで大理石の柱を囲んだ一団が、 ス マー フォ

ースに見入っている。

「あの金髪すげー」

「ダイナマイトだよな」

るだろ」 「生徒会長殿と大差ない気もするぞ。むしろ顔じゃ 南山 が 勝っ 7

「……すまん。少なくとも愛想では間違いなくこっちが勝ちだな」「言うな。 せっかく外国来た気分を満喫してるんだから」

「うひょー、 ウインクしたぜ!]

日本人離れした体型の美女に微笑みかけられて有頂天になって

いる、別の一団もあり。

ンした生徒達の再集合を待っている。そして、ある柱の周りでは数人の教師達が、各部屋にチェ ッ

と、陸奥十悟はぼやいた。 手を出すつもりも手を貸すつもりも無し

ひょろりとした長身に丸めがね。 短く刈り揃えた頭髪。 明治時

> 代の書生然とした容姿だが、軽薄なアロハシャツに半ズボンがど うしようもない胡散臭さを醸し出している。国語教師には見えな

「予定通りよ。 社会科女教師の新川さおりが、いかにも彼女らし定通りよ。邪魔さえしないでくれれば十分」

笑みを浮かべる。 7 不敵

ルック。小柄だがメリハリのある体型ながら、いつもと替わらぬボブカットにオシャレメガ 国らしさの欠片も感じさせない。 色気もなければ声ガネ、暗色のパンパ 南ッ

まって?」 「なあ、本当に大丈夫なのか、篤史達も宮藤の双子も置いてきち

で言わせてもらうなら、あの子達が受験生だって事を忘れてもら でも戦力的には十分アテになるから。それに、 ざわざ黒いのを六チームまで引っ張ってきたのよ、覚醒が不完全「珠坂を無防備にするわけにはいかないでしょう。そのためにわ っちゃ困るわ」 教師としての立場

「海抜150mまでもれなく水没するよりはマシでしょ」全員休みじゃあ、喫茶店は当面開店休業か。羽仁さん気の毒に」「お前さんがそう言うんなら大丈夫なんだろうけどな……看板娘

「……最悪の場合、だろ?」

「少なく見積もっても、よ」

「勘弁してくれい……」

至っていたところだ。 文字通り頭を抱える十悟。生徒達の前でなければ失意体前屈 K

「それにしても、 むしろ指揮能力に期待していたんだけど、予想以上の拾いもいれにしても、主力を一切動かさずに陽動を撃退したのは予想

帰るの?」

っは

な目で見ている。 ではない。 5目で見ている。お暇しようとする彼女を引き留めたかったわけ予期せぬ疑問にきょとんとする麗華を、月は今なお、意外そう「はい、あまりお邪魔しちゃうのも悪いかなって」

「パジャマで帰るの?」

「あ。そうですよねー、 着替えないとねー」

(りたたまれたままにひょいと振った。) 月の指摘に照れたように笑う麗華は、鞄から再び杖を取 り出し、

折りたたまれたままにひょい

ル水着だった。 足下に落ちてきたのは、 折りたたまれた黒布と、 紺色のスクー

隠れするのだが、月は大多数と同じく、 学校中で清掃が行われるこの時間、なぜか生徒の幾ばくかが雲 割り当て区域にいた。

「うん、今日もいい感じね」

清掃を終えた女子トイレを眺めて、 彼女は満足げに清掃器具を

斤付ける。

連続、希望してトイレ清掃を担当している。 多くの生徒に忌み嫌われるトイレ清掃だが、月は入学以来二期

清掃用作業着まで支給される唯一の区域。 :掃用作業着まで支給される唯一の区域。彼女に言わせれば、悪洋式便座のトイレ故に不可解な汚れは少なく、ゴム手袋に加え

くない清掃区域なのである。

「さーてとゴミを捨てましょう」

裏庭を歩く。そこで今日も、鼻歌を止める。 清掃中の廊下、昇降口を抜けて。掃除をサボる生徒のメッ独り言に小さなメロディをつけながら、ゴミ捨て場へと向

シャ

放水の音。

何が起こってい るかは見るまでもな

その場へと駆け寄った。 月は引っ提げていたゴミ袋をその場に置き、水たまりのできた

強い調子の科白とともに、 月は二人の女子生徒の間に立ちは

「今すぐ止めて」

かった。

同時に、 ライトブルーの作業服は濃色へと染まって

「何を?」

「水を止めて」

ラウンのロールヘアが弾力を持って揺れる。月が対峙した少女は不敵に微笑む。小首を傾げると、

いブ

る。 ホースの蛇口を絞り強めた水流を、彼女は月に浴び「掃除中よ? 水を使うのは当然のことじゃない?」 せ 続けて

ر\ (\ 「そう。なら掃除を続けて。私は彼女を保健室に連れて行くから」 ついぞ顔面に水を浴びながら、平然とした月の表情は変わらな 視線を目の前に据えたまま背後に手を伸ばし、 冷え切ったも

「あら、岡部さんの掃除は免除?」

う一人の少女の手を握った。

「顔が真っ青なのよ? 何よりもまず、 保健室に連れて行く 0 は

「そっか。どんな魔法に失敗しちゃったの?」少々扱いに戸惑いながらも、当たり障りなく改めて問うた。

まるで姉妹のような雰囲気なのは、彼女が麗華をそう見てい 月は麗華を笑顔で見つめながら、彼女の左側に腰掛ける る

「みんなそう言うんだよね。でも、本当だから。 しかし、麗華の方は突如、 妹のようではなくなっ えーっと、 私 0

持ってた鞄は?」

ああ、はいこれ」

再び立ち上がった麗華は、 部屋の隅に立て掛けて お た小 うさな

ショルダーバッグを渡す。

「ちなみにこの杖の仕組みは、別に魔法じゃないから」受け取った麗華が鞄よりシュッと取り出したのは。

どの棒になった。 下ろすとパタンパタンと勝手に接合部が合わさり、

これを魔法と言わないあたりが、彼女の「魔法」に多少の真実(確かにこれは魔法じゃない。棒にゴムを通してるんだよね)

月は少しだけ、麗華に注目した。

「月、よーく見ててね」

もはや不要な言葉を投げると、 麗華はくるりと、 杖で小さな弧

虚空から、毛足の長い白絨毯の上に小箱が落ちた。

開ける。中から出てきた、 なのだろう。 彼女は足下のそれを拾い上げると、「そうだよ、魔華の大好きなお菓子」 チョコレート色の棒は確かにポッキーい上げると、当然のようにパッケージを

「月は、好き?」 早速一本咥えた麗華は、 取り出し たたも う一本を月に差し出

「うん、好きだけど……」

「あ、ホント。ポッキーだ」 彼女は受け取ったそれをじっと観察した後に、 ちょこんと囓る

「でしょでしょ? これで魔法をわかってくれたよね?

としない。 月の反応に目を輝かせて、ずいと迫る麗華だが、 月の方は釈然

「うーん、魔法と言うより、 手品?」

「違うってば! 魔法なの、 魔法」

「そ、そう? じゃあ魔法でいいや」

「ぶー、月、信じてないでしょ?」

あからさまな月の様子に、麗華はちょこっと膨れ 言葉だけでなく、その見る目にすら魔法を信じ ていな たが。

ないんだよねー」 「魔法使いって珍しいものでもないのに、 みんな受け入れてく

んだ。続けてショルダーベルトを割とある胸の間に通し、整えてのこと。麗華は気にせず杖を折りたたみ、バッグの中にしまい込人々の反応はいつも変わらない。信じてもらえないのはいつも いる。

たって事かしら」

「ああ見えて伝説級のスーパーハカーなんだけど、文字通「ってえと、あのやたら偉そうな子供の事か。飛筬とかい「ってえと、あのやたら偉そうな子供の事か。飛筬 りの <u>5</u> ゥ

ザードでもあったってこと」

「……ってえと……っ

不思議そうな表情が、 戸惑い に、そして心底嫌そうなそれ ^

に陥る。 らしくもない察しの良さを発揮した十悟が、今度こその「リングが映画化されるまでは世界一有名だった、アレか ポよー ーズ

「正直、俺には専門外のさらに埒外なんだが、そんなもんな「国文学専攻の十悟でも知ってたか。そりゃ強力なわけだわ」

か ? なの

一人で納得した様子のさお りに対 Ļ 十悟はあく までも胡散臭

回路が、インタフェースごとに便宜的な魂の単位と見なせているゃないそうよ。不可分なまでに連なりあって重なり合った巨大なるアリスの言葉を借りるなら、魂ってのは個々に独立した存在じ「私も本職は脳外科なんだけどね。でも、精魂工学の専門家であ だけ。集合無意識論に近いのかも ね

「はあ?」

どうせ、さおり自身、十悟にきちんと理解させるつもりもない解できるわけではなろうし、詳しい解説されるのも願い下げだ。リピートを求める気にもなれない。聞き取れたからと言って理

「彼女の理論によれ ば 神 0 性質さえ信仰の影響を受ける

もの

いかもに日本人らしい不敬きわまりない発言にや、それだと神も同じか。くっくっく」 から。空想上の存在もまた人々の思いから魂を得るっ 7 ね

ウケて含み笑いを漏らす。 自ら突っ

この幼なじみはいつもこんな具合だ。 自己完結してしま つ 7 い

いても、自らの思考を整理するために口にしているだけ。 こういうところは子供の頃から全然変わらない 本来彼女に相談相手など要らない 0)

中で強大な力を誇る存在が実体を得たなら、それ相応の自然干渉 「つまり、英雄だろうがバケモノだろうが、 人口に膾炙した伝

「魔法使いで隕石が落ちてくるなら、鳥山某のマンガのだいたい分かった。最初からそう言うべきなのだ。力を発揮しても不思議はないって事になるわ」 か出たら恐ろしいことになりそうだな」 丰 ・ラと

格的に恐ろしいことになりそうなわけだが」 「今まさにラブラブ工作センセイの邪神様がお い

よーくわかった」

た程度だが、それでも超自然的な現象を引き起こせるのは間違いんてマイナーな鬼であるから、能力の程は子供だましに毛が生え と呼ばれる存在の力を借りられる。十悟が扱えるのは『巻舌』なかくいう十倍やさおりも、斗流十家の血を媒介に発現する星鬼

更地に変えたのも、 |鬼『師門』が、一瞬にして珠坂の街を数キロメ直接的な危険性の程度で言うならば。宮藤家の あやらく彼女らの コ ント 口 メ | | | ハートルにわたりの双子が宿す炎の ル を離れかけ ŋ 0

紀が宿すのは、北斗 が宿すのは、北斗七鬼の頭『樞』。さらに悪いことには、さおりの従妹にして斗流宗家たる新川詩さらに悪いことには、さおりの従妹にして斗流宗家たる新川詩

っぽい邪神様に繋がるのは想像に難くない。 で炎の邪神さえ召喚されらるなら。詩紀の宿すそれが、名前の韻だけで伝説の魔法使いが顕現し、フォマルハウ 名前の韻だけで伝説の魔法使いが顕現し、フォ 頭足類 ト繋が

ィクションでも妄想でも大差ない。ひとたび属性が絡んでしまえそして、さおりの語った理屈によれば、大先生の小説がノンフ 顕現した際の危険性は大先生やその後継者達の記述に迫りら

も人間にとっては十分脅威といえるし、彼らとの接触が切っ掛けを遡上し押し寄せるという事件が既に発生している。それだけで凶悪な半魚人の群れが、主筋に当たる詩紀を迎えんと珠坂まで川幸いな事に現時点では詩紀の中の樞は覚醒に至っていないが、 となって樞が覚醒する可能性もあるだろう。

狂レベルのバケモノが世に放たれかねない。 つまり、 核兵器の直撃にさえ耐え、常人なら一目見ただけで発

ろまで修学旅行なんかに連れて来てるか。納得いく説明を きたいものだな」 「どうしてそこまでのリスクを冒してまで、 わざわざこん なとこ い ただ

ここもまた南の島。周りは全部海。世界の海は一繋がり。邪神様の本拠地ポナベ沖からは距離があるとしてもだ。 水の

群がリアルタイムで交戦中であったりするわけで。 をはかりつつあり、密かに詩紀の警護に当たっている『樒』の一実際、いつぞやの半魚人に数倍する戦力の海生生物たちが上陸 怪物達から身を守って立てこもる場所としては最悪だろう。

> って言い を持つ司令官殿の機嫌が悪くなるのも当然だ。自分の国でやれ!は、現地の人々にとっても迷惑きわまりない話。島の防衛に責任 戦争始められたり、 たかろう。 あまつさえ魔術戦で隕石なんぞ落とされて

べきかしら」 紀ちゃんの彼氏様のご意向。 正確には、 脅迫されたと いら

十悟は首を捻る。

かりやすく頼む」 一介の国語教師にも誤解無く理解できる「すまん。上手く聴きとれんかった。も 肼できるように。か₁った。もう一度言っ√ かみ砕いて、 て、 カュ わ

ところで仕方ありませんよね』って言われた」「『女学生一人の日常さえ守れないような国なんて、 滅び去っ

白になり。ついで羞恥に染まった。 さらりと告げられた台詞の意味を理解した十悟は、 今度こそ蒼

L、 自朝含みの引きつった笑みを浮かべる。 「無茶苦茶だが、至って正論だ。いっそ清々し 上。 1, ほどだな

「あいつら、 お似合いすぎだ」

「まったくね」

い砂浜。椰子の木。青い珊瑚礁。の中程西岸にあるIビーチ公園。

に見ゆるは恋人の名を持つ岬。 溢 れる日 差 し。 は るか

その先頭を切るのはずば抜けて小柄な少女。波打ち際に向かって駆け出す、水着姿の少年少女達 色素の薄いふわふわの猫っ毛をツインテールにくくり、 身に

9

て歩き出した。 なんて格好をしているのだろう。そう思うよりも前に、 肩を抱

たとき、 「ちゃんと持ってたのね……」 たとき、そのポケットからころりと落ちたのは携帯電話だった。数歩行ったところで置きっぱなしに気付いたデイパックを拾く

月は苦笑しながら、 少女を抱き直して帰途へと戻った。

ー、生き返ったよー」

女が入ってきた。 ックもなくバンと開け放たれたドアか 5 桜色に染まった少

まっている。 お風呂上がりで血色もよく、 前開きボタン留め 0) 18 ジャマに収

月は少女に釣られて笑みをこぼしながら、読んでいた本を置き、「ありがとうございます。えっと、あ、名前聞いてなかった!」

折り返しながら自己紹介。 とてとてっと歩み寄ってくる少女の、 長すぎる パジャ マの袖を

座っていたベッドから立ち上がった。

「どういたしまして。月よ、桂川月」

「ルナ、ありがと。素敵な名前だね。お月様みたい

「そうね、 そのまま漢字で『月』というのは正直ちょ V け

「え、あ、そうなんだ。月ね、それはちょっと痛いね」

笑顔そのままのカラッとした物言いにこそ、むしろ苦笑した自虐的に言い放つ彼女を、少女は空気も読まずに肯定すr。 むしろ苦笑しなが

「言ってくれるね。 あなたのお名前は?」

> 一鈴木麗華だよー。華麗じゃない これまた曇りのない口調。 から麗華だよー」

言動も含めて考えるに、小六か中一か、その辺だろう。 確かに華麗ではないけど、 キュー で元気な女の子だ。

「麗華ちゃんね、よろしく。 そのベッドに座ってい いから

ねるたび、真っ白なシーツが襞を作ってい 月が指差したベッドに、麗華は早速飛び乗った。 る。 ぽんぽんと跳

「麗華、呼び捨てでいいよー」

りながらも、月は机の上に用意したマグカップを差し出した。 これではジュースをこぼされかねないかな。ちょっと不安に な

「これ、飲む?」

「なになにー?あ、 オレンジジュ ース! 飲 む飲む、麗華大好

取ってコクコク喉を鳴らしながら飲んでしまう。麗華は早口で答えている最中にも、シュッと彼 きだよ」 ッと彼女の手から引

「ぷ は ー、ありがとー」

マグカップを離した顔にはうっすらオレンジの お髭が できて

そんな麗華に感化されたのだろうか、たが、ぺろりと舐め取りお掃除完了。 月は前置きもなしに口に

「どうして、ずぶ濡れで倒れてたの?」 「魔法、失敗しちゃった。てへ」

ぺろっと舌を出しての答えは、 想像だにせぬ ものだ

にょっと首を前に突き出す月

魔法って言ったよね? そんなに幼くは見えな ٧V んだけ

魔法少女と魔法と少女

Fukapon

塊があった

少女の目の前には、少女と思しき黒い

漆黒の布に覆われた首下と強いコントラストをなしている。道ばたに横たわる彼女の顔は真っ白。夕刻の薄暗さの中ですら、 彼女の周辺だけ、アスファルトが黒い。

てらてらと光る布と合わせて考えるに、 濡れて V る のだろうか

彼女の頰におっかなびっくり手を伸ばしたとき、白桂川月は改めて声をかけると、少女の前で屈んだ。 返事してよ」

白い

肌

の理由

に目を見開く。 死んでるっ?」

血の気がない。

「え、ええええ、きゅきゅ、きゅきゅしゃ。救急車よ、触れた頰は、まるで今朝触れた水のように冷たい。 け、 携帯

ぐった。 背負っていたデイパックを降ろすと、 口を全開にして中をまさ

大して物が入っていないはずなのに、肝心な携帯一つが出てこ「ああ、あああああああー、どこよ、もうっ。出てきてよっ」

鎌首を擡げたとき。 そもそも今日、携帯を忘れてきたのかも知れない と嫌な予感が

何かお困りですか?」

月の背後から女の子の声

たのは少女だった。 やった、救急車を呼んでもらおうと彼女が振り返ると、 立っ て

えええっ?」

どどどどうしました?」

大声を上げて驚く月に、大声で呼応して驚く少女。 月は大まじめに、もはやあり得ない回答を続ける。

「だって死んでたんじゃ……」

「誰がです?」

「あ、あなた?」

未だ血の気のない少女の顔が、にこっと笑みに変わった。「いえいえ、私は生きてますよ。ちょっと倒れてただけです」

なるほど生きている。路上にへたり込んだままの月は、改めて

少女を見上げた。

水が滴り落ちている。 首下の漆黒は、どうやらマントのようだ。裾からはぽたぽたと、

始めた。 少女はケロッと言い放ちながら、首元で手をごそごそと動かりでも、このままでいたら本当に死んじゃいそうな寒さですよね」 少女はケロッと言い放ちながら、

「これで大丈夫、っくしゅん。うー、脱いだら脱いだで程なくしてバサッと音を立て、濡れたマントが落ちる だら脱いだで寒い 0) で

はすっくと立ち上がる。 露出した肩を抱きながら、 くしゃみを繰り返す少女を見て、 月

「水着じゃ寒いに決まってるでしょ。ほら、これ着て」 彼女は着ていたピーコートを脱ぐと、 少女の肩にかける。

なしも、どことなく猫を彷彿させる。けているのは黒地に白の猫の足跡柄の いるのは黒地に白の猫の足跡柄のタンキニ。 軽やかな身のこ

かきのある大きな足と丸っこい身体つきからは信じられないほどやや遅れて続くのは、ペンギンの着ぐるみを着こんだ少女。水

スピードで、 砂塵を巻き上げつつ砂浜を突っ走る。

開いたくちばしの間からはタンキニ少女と同じ顔が覗く。違いと着ぐるみの頭部分からは同じくツインテールが飛び出しており

右のフリッパーを力強く突き上げ、淡々とした声で着ぐるみ少「汚心は消毒だ~っ!□」タンキニの少女が跳び蹴りの体勢で気勢(奇声?)を上げると「ヒャッハー!▽」 (奇声?) を上げると、

女が応える。

一 か**、** 可愛い~

「ヤヴァイ、ヤヴァすぎる!」

を釘付けにしつつ、異常なテンションで暴走を続ける双子。可愛いもの好きの女生徒達と、一部の特殊な趣味の男子生徒達

私は南の島が大好きだ!」

「よろしい、ならば海水浴だ!」

生徒達の反応も、二人に呼応するように盛り上が つ

「なんだか分

異常な雰囲気に冷水を浴びせるように、「なんだか分からんがとにかくイイ!」「カワイイカワイイカワイイカワイイ!」 落ち着い た声が 掛けら

「綺麗な海見て浮か れるの も分かるけど、 ちゃ んと準備体操は

> 「おう、来たかナナちゃといた方が良いよ。リン ンリン・ ~

 \mathcal{L}

「待ってたホイ」

ぴったりの双子。 テンションも服装も正反対にも カュ カュ わ らず、 相変わらず呼吸

線の細い少年は、頬を掻きつつ苦笑する

「ペンペン、それ暑くないの?

「結界魔術で耐熱対爆対NBC。 右フリッパーでびしりとサムズアップ。 冷却も完璧

ど 「そんな変なもの作るのはさおりさんだな。 着る方も着る方だけ

にパーカーを羽織っている。ナナと呼ばれた少年はといえば、 シンプルな 卜 ランクス型水着

「って、どんだけ……」

る者。 口を開けて固まる者。 熱い砂浜に両手と膝をつ く者。

「あたしら女の立場ってどこに」

「ありえんし」

「犯罪だろこれ」

「いやむしろこっちが犯罪に走りそう ア

「エロい、エロすぎる」

「誰かレインコートでもかぶせとけよ」

のか。 賛辞とも苦情ともつかぬ呟きは、くだんの少年の耳 Ċ は届 カュ

それとも、 双子の中学生に左右からとび -生に左右からとびつかれてしまっては、慣れきって無視することにしているのか それどころ

Ó 深い顔立ちに、 惜しげもなく晒した長身か ~ ~ メリハ

「「美人オーラ充填中」」

「あの……この暑いのに何やっ

てん

の ? _

ではないのか

「そういうのは詩紀ちゃ んとか の方が御利益ありそうだけど

に溢れてい 苦笑しつつも、 二人に好きなようにさせているナナの目は慈愛

あの状況であの余裕

「日常なのか、日常茶飯事なのかっ?」

「悔しいけど絵になる」

「聖母子像だよねー」

海にも入らず、遠巻きにして手に汗握るギャラリ「なぜかペンギン居るけどな」

るの?」 「つうか、 あれ中等部の子達だろ。なんでうちらの修学旅行にい

心で観賞するに限る」 やることに意味なんかあるか。詮索するだけ無駄無駄。 「七瀬のリン・ペンといえば神出鬼没の暴風姉妹だ。あいつらの ここは無

「さすがはロリ な人。 無駄に詳し 1, な。 俺はむしろああ ζ,

愚問

ね。

人間の操る語彙で言い

表せるような底の浅

い関係で

「……見た目だけなら、 な

彼らの視線の方に興味を転じてみれ

燃え上がるような赤毛に合わせたような、 っ赤なビキニ、 同色の麦わら帽。 サングラスに白いステッスような、シンプルデザイ 丰。 シの

> あるボ デ IJ 0

たその佇まいは、絵に描いたような「美女」年齢的には少女と言うべきなのだろうが、 」っぷりだった。

ずサングラスを差し出す。その彼女が眉を寄せるや、 傍らに立つ学生服の少年が、 すか Z

「ほいリサ。 五番アイアンだな」

「ありがとう」

リサと呼ばれた少女は サングラスを交換すると、 騒ぎの 单 Ė 部

を見やり、 口の端を吊り上げた。

うに言う。 「ふうん、あの方が噂のしぃ子の大事な人?」 少年とは逆サイドに立つもう一人の少女を見やり、 か b カュ うよ

「あれ、 放っておいてよろし ζ, 0) ? それとも、 余裕な 0 カュ

「ふっ」

しい、繊細な作り物のような容貌の娘だった。鼻で笑って切って捨てたのは、赤毛の娘とは 娘とは ま た別 0) 意味で 美

ないから」 瞳。長い手足と華奢な肢体。流れるに任せたストレート 口 ン グ / のプラ チ ナ ブ П ۲, - に菫色の

ど似合うに違いない。 べきだろうか。 名のある人形師の手による活人形、 燦々と輝く太陽の下より ・、。雪景も1の方がよっぽあるいは妖精とでも形容す

えに出てきた。 寛美は自分の家のように挨拶をする。 それ を聞 1) て、 浩太が迎

おかえり。どうだった」

と思うんだけど……」 「一応セパレートだし、お腹も出てるし、 確かに似合っ て は 1,5

「おい、どういうことだ?」 なんとも煮え切らない返事に、

浩太は眉をひそめ

た

「んー、お互いの主張の妥協点を見いだしたというか_

「意味わかんねえって」

「ちょっと着て見せてあげてよ」

「ヤですよ。なんで兄貴の前で」

たのだ。妥協しきれない時は勢いで押す、とは佳奈から学んだ対寛美に「隠すなら一緒でしょ?」と強引に会計を済ませてしまっ きめで、胸元が完全に隠れるのだ。せめてパレオにして、という トタイプだが、 見つけたショートパンツ付きの水着で押し切ったのだ。セパレ 美紀はそそくさと逃げ出した。あれから数軒回 寛美がセレクトするビキニと違ってトップスが大 った中で、

場所を決めて水に入る時だけTシャ これで泳ぐ前は上にTシャ に、美紀は達成感とともに戦利品を袋から出した。 自分の中でそれなりに妥協点を見いだせるのは珍しいだ ツでも来ていれば何)来ていれば何の問題もない のだ。水着に

とになるとは、 佳奈に水中でショ 夢想だにしてい ない ンツを脱がされて大騒ぎするこ のだった。

つ持たされて、試着室に入れられた。 を押しつけられ、ついでにいつの間に確保したのか、 ビキニも

「着替えたら言 ってね」

着替えた。 呻いても仕方がない。 大人しく来ているものをぱぱっ と脱い で

「いーっすよ」

も着てる?」 「はーい。あ、 () () p λ W W ľ p ん。 すっご 1,5 か わ W W ょ。 山

「はあ、まあ一応」

が入っていたのだ。その上にスカートの短いワンピースを着ていーワンピースだと思ってハンガーから外してみたら、中にビキニ る格好だ。

「脱いで脱いで」

「いや、

見なきゃ」 「ダ メ ー。 - 。 せっかくいろいろ使えるタイプなんだから、いいじゃないですか脱がなくても」 ち P んと

脱いだ。 業を煮やしてワンピースをめくろうとする寛美を抑えて、

らしく見える。一方の寛美は、身長も女性の平均くらいで体の凹ら余計に男性に見られがちだが、ビキニを着ればそれなりに女性が薄いから、女子にしては背が高いことと相まって普段の言動かどちらの言うことも間違っていない。美紀はやせ形で体の凹凸 凸がはっきりしているから、 どちらの言うことも間違っていない。美紀はやせ形で体「何言ってるんですか。自分は超スタイルいいのに」「わー、やっぱミキ君きれいだよねー」 水着を着れば男女問わず衆目を集め

落ち着いているしフリルも目立たないが、トップスの中央に次は気付いたら持たされていた、モノクロームのビキニだ。納得したのかしていないのか、しゃっとカーテンを引かれ「んー、ま、とりあえずは次々」 くリボンが付いている。それでも仕方なく着替えてみた。 央に大き 色も

1 ?

「どぞ」

「 オ |

かっているから、やっぱりね、と思うだけだ。 寛美はさっきと一転して難しい顔になる。その「オープーン。ふーむなるほど」 理由は美紀も わ

ないからこういうデザインだとしょぼく見えるし」 「これ絶対寛美さんが着た方が似合うと思うんですけど。 レ胸

っきのの方がいいね」 「んー……色的にも合うと思ったんだけどな。 確かにこれなら

しまった。 とりあえず普段着に戻る。 寛美は水着を二着とも店員に渡

「ひょっとして他の店も見るつもりです「とりあえずあのワンピースの方はキー プね

h

「もちろん!」

楽しそうに次の店に向かう寛美に、大人しくついてい しないが、雅の買い物に付き合って、よくわかっている。美紀は女性の買い物とはこういうものだ。自分ではこういう買い方は った。

「ただいま」

に貸してあげたぐらいで罰は当たらないと思うわ」 「それに、ナナの『九州珠口』は通訳の星鬼。海外旅行で妹分の冷たい印象をやわらげるのにそれなりに寄与しているようだ。ただ、レモンイエローの可愛らしいリボンつきビキニは、彼女

「ホテルもその辺の店も、 日本語思いっきり通じてる気がするけ

ど……っ!」

「ツッコミにキレたぐらいで偶然に干渉するな! り込んだ。 こんなん当た

学生服の少年をかすめて椰子の実が落

ち、 鈍

い音とともに砂に

ったら命に関わるだろ!」

「それは生きている者だけが口にしていい台詞

またもばっさり。 少年の表情が大袈裟に引きつる

「よしよし、怖かったんだね詠んくん」「うわぁん、リサえもぉーん!」

だみ声を作り、泣きついてきた少年の頭をリサが撫でる

二人とも、 実にわざとらしい小芝居だった。

「あなたたちこそ、相変わらず仲がよろしくて大変結構

ービスの依存関係上仕方ないだけだ」

「詠人さんの場合、 詩紀の彼氏さんのように取り立てて見栄えが

優れているというわけではありませんし」 軽口を軽口で返した、といった感じの会話だったが、

「なん、

少年の表情の変化には、 今度はわざとらしさは含まれて

l,

なか

な綺麗な子が女の子の筈が 15 い 2

「……そこに引っかかるのね」

銀髪の少女は少しだけ感心し たように言う。

は理解できる気がしますわ」 「大いに語彙矛盾してますけれど、詠人さんが仰らんとすること

放っている。 ているにもかかわらず、 双子の中学生と戯れている人物はどこから見ても男の格好を これでもか とい う「美人さん」 オ 1ーラを

て疑わないだろう。 海水浴モードでなけれ ば 十人中九人までが自然に女性と信じ

ったら、ショックなんてもんじゃないぞ!」「ったく非常識な容姿だよな。うっかり惚れ 惚れて カュ ら男だって分

ζ, あたかもライトノベルのタイトルのようね」

「親友の彼氏があまりにも愛らしすぎて『うほっ』に走りか

ね

「そんな陳腐な関係ではないと何度言えば」

詩紀の否定の言葉に呼応して、再び落下してくる椰子

「なんで無実の僕を狙うかね!」

「そんな細かいところまで意識して制御できるわけではな」詠人でなければ、下手すれば命に関わっているところだ。 い カュ 5

潜在意識のなせる業かしらね」

みた外見の中身がどんなヤツかはよーく分かって(彼は新川詩紀の為人を熟知していると思ってい いると…… この妖精じ 思い

表面的にはとも くねえ。 にはともかく、「心底嫌いただけかもしれない。 あと、 ζ, 『心底嫌いだ』って聞こえるんだが、 だ と解釈され カン ね ない

11

「返答の如何によっては粛正の対象になりうるものと憶え置くよ

なことなので二度言いまし「たぶん気のせいではない わ。 た たぶん気のせいではな わ。

実に容赦ない。

なっていた。 こうして久々に直接会ってみると、 記憶の中より 、さらに強烈に

のと考えるのは甘すぎるだろう。

言うところの粛正とやらが、霊体なら安全とたかを括れる類のも

先ほどの椰子の実のような物理的な打撃ならまだしも。彼女これは洒落ではすまされなさそうだ。と少年幽霊は緊張する

0

の女王のそれで。

常識ではなくって?」 「直射日光の差す南国のビーチを平気でうろ「彼氏も彼女も非常識だなおい」 っ いて る幽霊こそ非

雇い主もまた、詩紀とつるむと常日頃より容赦なか「あんたに憑いてるんだから仕方ないだろ!」

るな危険。 っ ぜ

ない

ものの、明らかに焦っていた。

これ

は相当に

珍し

い。

まさに

オフで会って、

リサの口調も不自然になっている。サングラスで表情を読ませ

しぃ子の関係者だって知ったのは少量サークル繋がりで、ずっとオンライ

少し前

インの付き合

「もともと俳諧サ

から 合わせるべきだわ。制服、しかも冬服なんて不自然すぎる。それ「文字通り影が薄いのはともかく、せめて服装ぐらいはTPOに

「もう一つ若干不自然なことが。学校の違うリサや詩紀嬢は右手の人差し指をぴっと立てて、 ちょっと奇妙だと思わない?」 ハ チが こことに

さしものリサも、この台詞には反応が送れてしま 5

たのですけれど……何を今さら」 かねがね気にはなっていましたから。五ヶ瀬さんからお誘いを受 「しぃ子が普通に集団生活を送れているなんて信じられな 紫城の修学旅行にあわせて個人的に遊びに来てみ し、

「……どの口が言うか、不自然の根源」

リサを?」

詠人のツッコミは、 詩紀によってあっさり流され る。

> 差し迫る危険を感じている証左。 じし **菫色の瞳が、二人の顔を交互に見つめ** 少しでも後ろめたさを憶えたりあるい は目をそらし

死

だったことにされても不思議はない。 この世に生を受けた事実自体を抹消されたり、 ある $\langle \cdot \rangle$ は小動物

……で済めば御の字か。

きるだろうか。 きっと冗談なのだろう。でも1 0 パ] セ ント冗談だと断定で

使えるかどうかは分からないが、自分の運命をチップに試してみ本拠地である珠坂の地を遠く離れた南の島でもそこまでの力が る気にはなれない。リサにしても詠人にしても、 本音だった。 それは偽らざる

いやな数秒が過ぎた後、 のすごくいい笑顔で、 詩紀サマはのたまわ ふと緊張が緩む つ た

らめ っこり笑う。 こり笑う。義姉の優しい笑顔に、美紀はため息と共にあき・メ。せっかくなんだし、かわいいの選んだげる」・一人で行くから――」

だ。普段なら二人で行動するのに緊張感を覚えたりすることはな女の子の買い物だから、と、買い物に出たのは美紀と寛美だけ を包んでいる。 が、今日ばかりは何が起こるかわからない怖さと緊迫感が全身

当然試着をしないわけにはいかない。 恐がることではない。 とんでもない水着を買わされても着なければいい話で、そこまで強いるつもりはないようだし、一緒に行くわけではないのだから 寛美は美紀で楽しむことに躊躇はないが辛い思い それはわかっているのだが、 買うとなれば を

極力地味で目立たないものを選んでいるのだ。 の子らしさを押し殺したいのは普段着と変わらないから、せめてている美紀だが、水着はやむなく女性用のものを着る。ただ、女 日頃男だと自覚して行動し、衣類は下着以外すべてメンズを着

特別な日が絡まなければごく自然に男として扱い、相談にも乗っ ・。そうそうブチ切れることもできないのだ。 女らしい服を着せようと画策するのが浩太と寛美だ。そうい それを一番理解して、なおかつライブやステージでは反対方向 精神的に誰より頼れるのもその二人であるから始末が悪 う

を水着売り場に連れて行った。 さて、近場のデパートに入ると、 寛美はニコニコし ながら美紀

まだセ

ルやってるよ。

····· て、

ミキ君すっごい

嫌そうな顔

「マジで嫌です」

「行きますけど、別にそれとこれとは関係――」からいいの買わなきゃ。雅ちゃんも一緒に行くんでし「プールに行くんだから買わなきゃいけないんだし、 せっかく ر د ا

「ほらほら、これとか可愛い!」

は、朱色がベースのビキニだ。布地は結構少ない ぶつぶつ言いかけた美紀をまるっと無視して寛美が手にし

「あー、寛美さんそれ似合いそう」

「何言ってるの、あたしじゃイマイチだよ。ミキ君が着るの

「無理無理無理」

「これは……誰が着るとかなく微妙じゃないですか?」

「これは?」

を離して「んー」と唸ってから、次の水着に。首を振る美紀の肩をがしっと掴んで、体に当ててみる。

少し体

「ん、そうかもね。じゃあ……こっちは

「ていうかなんでビキニばっか!!」

これとか」 「ミキ君お腹細いし脚長いし、 出してい つ た方が W 15 つ

「ド却下です。ほらあっち行きましょうあっ

張っていった。 は寛美の腕を取っ .寛美の腕を取ってワンピースが並んでついに肩紐すらなくなったセレクショ いると思われる方に引ンに恐れをなして、美

三十秒で後悔した。

「ほらほら、これならワンピースで超か わ (J

ト模様にフリフリ たっぷ り、 IJ ボ ン ベ ル 卜 まで付いた水着

Swimming Suit Battle 春屋ア

の端にちかちかと何かが光っているのに気付いた。携帯に佳奈か夏休みも半ばを過ぎた頃。昼前にのそりと起きた美紀は、視界 一本のメー ルが届いていたのだ。

を洗いに部屋を出た。 _ プ | 明日は特に用事がない。とりあえず賛成のメールを送って、顔プールリゾートのタダ券四人分もらった! 明日行かない?』 -ルリゾー

「あ、寛美さん。おはよー」

「おそようミキ君。もうお昼前だよ?」

いるから、なんだか違和感がない。の彼女が座っていた。付き合いだした頃からよく家に出入りしての彼女が座っていだ。付き合いだした頃からよく家に出入りに兄と兄

「母さんは?」

「買い物。 パンでも食っ

スターにパンを入れて一分

「おー」

「もう?」

が思わず言った。 早々と出して食卓に持ってきた美紀に、それを見慣れな W

「表面だけ焼けてるくらいがいいんですよ」

もんし 「ううん。だってミキ君が朝食べてるところに来たのは初「見たことなかったっけか?」 めてだ

二人の会話を聞きながら、 バターをざくざくと塗って口 に入れ

の浩太が尋ねた。

「お前、明日ヒマだったよな?」 「いや、さっき用事が入っ

「学校の友だちとプール行ってくる」

「ほう?」

二人の返事が重なっ た。ん? と顔を上げると、 何やら顔を近

「……何だよ」

づけてこそこそ話をしている。

「水着は? もう持ってる?」

「いや、ないから後で買いに

を見立ててあげる!」 「わかった! そこはお姉ちゃんに任せて バ ッ チ リ似合うの

「 !?

今日のうちに何軒か見て回って方針を決めて、明日は美紀を引っそろそろライブも近いし、衣装のことを打ち合わせに来たのか。 張って行くつもりだったのだ。 ぎて寛美が朝から家にいることに何の疑問も持っていなかったが、予感がした。そういえば浩太は明日の予定を聞いていた。身近す突然立ち上がって高らかに宣言した寛美に、美紀は猛烈に嫌な

立てたくない。戦々恐々としながらパンを片付けた。 そぼそと話を進めている。聞こうと思えば聞こえるが、そこまで考えが至った頃には、二人とも美紀はそった ち 聞き耳も

「……じゃあオレ買い物に……」

てからにしない?」 「あ、もう行く? おばさんがお昼の買い物に行っ た から、

心情的には無罪放免が順当だが、不当判決だと思っても皮一枚で繋がったわ」「嘘はついていないようね。おめでとう。執行猶予つきよ 執行猶予つきよ。 首の

せるものではない。 П 17 出

それに、 ある意味では二人は罪を犯している。

彼女に多少なりとも不安を感じさせる、ただそれ だけの 事でさ

安南家を直接訪れた五ヶ瀬七夏は、二人にそう語った。、人類存亡に関わる大罪なのだから。

どの注意を必要とする。魔王の蛹は夢見ながら覚醒の日を待ち新川詩紀の抱えている『樞』という爆弾は、取り扱いにそれ、安南家を直接設計大力 手にある核兵器より遥かに危険性が高い。る状態であっても、人間にとって十分以上の脅威。 脅威。テロリストのら覚醒の日を待ちい、取り扱いにそれほ

い。というのはあくまでも七夏の弁で、リサ達から見ればこの辺らとばかりいては、本当の意味で楽しんではもらえないに違いな去の行きがかり上どうしても詩紀に負い目を感じさせてしまう彼四六時中キャッキャウフフしているわけにもいかない。それに過四大時中キャッキャウステルで

兄である篤史氏は珠坂を離れられない。そこで白羽の矢が立った最適任である詩紀の付き人宮藤終やその姉初、それから義理のりには疑問があるが、そこは置いておく。 中学校自体からの親友であるリサだった。

とやらの為せる業なのかもしれないが……曲がりなりにも友とい える自分たち以上の理解者として彼女を支えてくれるのならば。 はなく、罪滅ぼしでもなく、ただただ語るもこっぱずかしい愛のと真っ向から向き合っている。決して世界を守っているわけ七夏は女顔の華奢で頼りなさげな少年だが、こんなめんどくさ

> ていれ だけで信頼と尊敬に値する。 安南リサと白須詠人はそう感じ

それなりのお仕置きが必要ね」「それはそれとして。こんな大切なことを黙 2 7 いたナナに は

詩紀の少し弾む声に、本気でガクブルしたのもまた確かだ つ

至急確認乞う」 領域内に侵入者あり。C島西方より巨大潜水艦急速接近Minituder has perentated our field A.HUGE SUBMANIE S.APPROCEINGT A.HUGE SUBMANIE S.APPROCEINGT A.HUGE S.BMANIE S.APPROCEINGT A.HUGE S.APPROCEINGT A.HUGE

「HQよりアニスB。米軍および同盟軍に該当艦艇なし。いや、沖合にアンテナ、いや、セイルか?』 『C島、アニスBリーダーよりH Q。今のところ視認不可能……

可を与える。 武器使用自由」 交戦許

白く光る三角の背びれ。恐ろしく巨大だ。あれがサメなら本体は『……ああ、自分の目が信じられんが、見えたものを素直に言う。 クジラほどある』

くビーチに近寄らせないこと。より小型の鮫類や護衛の半魚人に録はないが、ここは深みのモノの一員として対処すべき。ともなムカシオオホホジロザメッの鬼化体と推測される。これまで観測記「HQ、ウィザードよりアニスリーダー。絶滅種の古代鮫、「HQ、ウィザードよりアニスリーダー。絶滅種の古代鮫、 も注意なさい」

あの 『いくらなんでもでかすぎる! は借りられ デカブツに手持ち武装では対処困難。 んのか?』 普通の鮫やら半魚人はとも 至急支援を乞う。 米軍

爆発を利用しなさい。それから、エクスカリバー投入を許可しま本的に肋骨を持たない軟骨魚類は衝撃に弱いはず。積極的に水中出来ない。鬼化による強化がどこまで及ぶかにもよりますが、基「姫さえ確保すれば帰るとふんで米軍は様子見。まるでアテには

「背びれに注意! 手前を狙って落とせ!」

一斉発射され、 し、『樒』Bチームの水上バイク群からグレネードランチャーが水面上にほとんど姿を見せぬまま海岸へと迫る危険生物群に対 海面を沸き立たせる。

海水に血の色が混ざり、背びれのいくつかが姿を消す。

「効いてるぞ、 第二射行けるか!」

「はいっ!」「行けます」

「よぉし、撃てーっ!」

再び擲弾が海面に落下。

「やったか!?:」

右拳をうち振りながら、飛成麻緒は低めの作り声で叫んだ。左舷段幕薄いよ、何やってんの!」

「そっちは陸側だから」

ら淡々と突っ込んでくる。 空気の読めてない相棒、炬紗也が、 並走する水上バイク後席か

あいまってお嬢様然とした楚々とした容姿だが、 どちらかといえば小柄で華奢な方。しっとりした黒髪の印象も 控えめを通り越

を浮かべたのであった。

「お志摩さん達を引き合いにしてもらえるなんて、

姉とも慕う二人の名を聞いた玲韻は、

そう言って心からの笑顔

光栄ね」

「……玲韻まで志摩やさおりの真似事を始めるとは、世も末だな」

のチワワ。 して臆病の域。 常日頃から警戒心に溢れている。 例えて言えば黒

の安全は二の次三の次だったりする。 ただ、その警戒心はあくまでも麻緒を守るためのもので、 自ら

「マジレス、 カコワルイって」

「ネタはともかくとして」

る。

双子の姉、 今天の姉、絵莉華。 波打つ黄金色の髪をなびかせた発育の良い娘。 今度は、隣の水上バイクの前席から声がかかる こちらは紗也の

「どうよあれ。まずいんじゃない?」

込むことも難しい。背後に控える巨大な背びれはその間にも悠々 海岸に押し寄せる半魚人達は追い払えても、 逆襲に転じて攻め

「奴らにはこの武器では勝てない……聖なる手榴弾とか必要とみと北東へ、お姫様のいる浜辺へと向かっている。

: ??

たね」

かり。 またも麻緒のネタが通じていないの か、 紗也 は首を か しげるば

のも見たくないでしょ」 がんばってるお兄さん達の首が がんばってるお兄さん達の首がポンポンクリティカ「やったか、とか言ってる時点でやってないのがパ ルタヒー - ットって って

「そこんとこ、 はげしく同感」

る? 「取材旅行に連れてきてもらった恩義もあるしね……足止めでき

「時間を稼ぐのはいいけど」

水上バイクの航跡をぎりぎりまで寄せてきた絵莉華は、

「大輔君には貧乏くじを引かせてしまったね。申し訳ないと思軽減する、五ヶ瀬七夏はそれさえ考えていたのかもしれない。 知っていて口を噤んでいるという大輔の罪の意識を

てる」 2

がはっきり分かった。 って謝る彼は、 それでも微塵も後悔はして いない。それ

が望まなかった。 修学旅行自体が無かったことにする事もできたが、 それ は 七夏

これだけの無茶ができる。 彼の目的は、 一人の少女を笑わせる事。 ただそれだけのために

罪の重さを知ってなお、それ 逃げずに正面から結果を受け止められる。
がの重さを知ってなお、それを否定する手段を持ち 合わ せてな

大きい、 本当に大きい。

女みたいな綺麗な顔をして、 心は実に強靱だ。 神経がカ ボ ン

ナノチューブ製に違いない。

ら彼氏も彼氏、というわけだ。 あの新川詩紀の恋人が務まるだけのことはある。 彼女も 彼女な

自分と相棒のことは棚上げにして。カップルは絶対に敵に回したくはないも の だ。 ٤, 切に

0

「婚約!? あの石丸が?」

としては珍しく驚きを露わにした。 ファ でくつろいでいた芳村黒男は、 妻の端的な報告に、 彼

「……信じられん。 相手は誰だ?」

> か浮 能力も高い男だし、容姿も優れている方だが、理想が高すぎる た噂の一つもなかった。 は樒の総司令である黒男の右腕と言っても良い。 真面目 0

う仕事に集中できるようになれば、樒の力は一段も二段も向上す本当に助けられている。石丸も良いパートナーを得てよりいっそ黒男自身、公私ともに的確にサポートしてくれる妻の存在には るに違いなかった。

向けてみても、 が、 まさかウホッでもあるまい į と心配 L た黒男が ?何度水

「いえ、 と、彼は頑なに一人を貫いていたものだ。いえ、いつ死ぬかも分からない自分にはそん な資格は

単純に興味が沸く。個人的事情には淡泊な方だが、 難攻不落の石丸城を陥落させたのが何者なのか 職務上の立場としては当然として 。黒男は他人 0

「花屋の赤枝千羽さん。黒男さんも会ったことあるわ」

しい。どうもイメージが弱くて、なかなか思い一度でも会った人物の名前と顔が一致しない い出せなかった。いのは彼にしてはな 珍

それを抜きにしても、可愛らしい容貌の割には、この派手な妻と比べては、大抵の娘が地味に 「新郷町の商店街の、あの地味っぽい?」 印象に残れなってし 入りにくいいまうが。

たでしょう。彼女に真摯に看護されて、ほだされ「石丸さんは先月の詩紀さん護衛作戦に参加して 人物だった。 ちい らゃったんだそいて大怪我され たんだそ V

らね」 「がつんと以下略!」どうよ紗也、こういうのが正しい反応だか「別に、アレを倒してしまっても構わないんでしょ?」親指をぐっと立て、不敵な笑顔を浮かべる。

「……わから ない」

移ってくる。 紗也は興味なさそうに言 い 9 2 麻緒の後席 \sim と無造作に飛び

「うわっ! 意外に揺れない いきなり何すんの!?」 器用なも のだ。

「麻緒は頼んだ」

それだけ言い残し、 急加速する絵莉華の水上バイ

言われるまでもない。

様に。 絵莉華が麻緒の剣、 麻緒 0) 意志に従い敵を討つ者であるのと同

自分とはそれだけのための存在なのだ。常に麻緒の傍らにあり、ただただ彼女を守る。

紗也にとって、

ベルトで背負っていた小銃に手をやる。 を形成する樒B チー ムの水上バイク群を追 い 抜 い た絵莉華

に渡った途端、 ほんの一秒前までアサルトライフルであったそれは、 一振りの黒い長剣に姿を変じてい た。 彼女の手

十数匹の鮫 や、先刻からのグレネードに数倍する水蒸気爆発が巻き起こり、 稲妻をまとうプラズマ球を宿した剣を絵莉華が海面に打 t Ċ. (ホホジロザメ、 と、 数十体の魚人間達が虚空に巻き上げられる。 アオザメ、 オオメジロザメ、 イタチ ち込む

> 轢いては勢いを殺し、落水寸前に小さな水蒸気爆発を起こして完 空中で器用に体を翻して体勢を立て直すと、鮫を蹴り、半魚人を絵莉華の水上バイクも同様にはじき飛ばされているが、彼女は 壁な軟着水を決めてのけた。

雑魚は任せたっ!」

ムを置き去りにして、 4を置き去りにして、巨大な背びれを追いかけてゆく。金髪と赤・黒のビキニのド派手な少女は、呆然とする樒B

「せめてウェットスーツ着ろ! お嬢ちゃん!」

その背中に向かってサブリーダーの仁科が怒鳴る、

頑丈そうには到底見えない。 なにしろ水上バイクのジェット水圧だけでも人間は死 おそろしく身軽で人間離れし た破壊力を持ってい ても、 九ねるのだ。 鮫よ り

今の攻防にしても、一歩間違えれば危険生物に引き裂かれ る以

前に内臓破裂で死んでいる。

「アニスブラボーリーダーよりHQ。エク

ハスカリバ

一交戦中。

| 賢明と判

断する

『HQよりアニスB、キングアーサーの守りはんつうか身も蓋もないが、放っておけん。援護が 不要』

 $\lceil \mathcal{T} = \mathcal{A} \mathbf{B},$

があるのだろう。 いていたが……そのウィ .ていたが……そのウィザードが言うの司令部を仕切っているのは、キングア だか サー 5 ら、安全という確信-こと麻緒の妹と聞

する半魚人に小銃を乱射し、鮫に乗って絵莉華を追う半魚人をグ追いすがる鮫に手榴弾を投げ込み、水上バイクに取り付こうと「全力でエクスカリバーを援護する。続け!」 ν ドで吹き飛ばす。

スの水上バ イクの動きは一件 . ラ ンダ L に見えるが

「スピードではこっちが上だが、れたサッカー選手達を思わせる、互いに援護可能な位置をキープレ スピードではこっちが上だが、敵は数が多い。鮫よりたサッカー選手達を思わせる、組織化された動きだ。 ープし続けている。 チー ・ムワー クに優

意しろ。 絶対に取り付かれるな」 鮫より魚人に注

В チームのリーダー田端は十分な手応えを感じていた。 自分の鍛え上げた二輪機動部隊は水上戦でも十分に戦える。 樒

と変化するそれぞれの役割を完全に把握している。 基本方針さえ与えれば、田端がいちいち指示を出さずとも、 刻 17

心して任せられる。 バ ケモノに引けをとるものではない。こんな特殊な状況でも、安 彼らがひとたびバイクに乗れば、世の常の鮫やら人間サイズの

はといえば、迅く力強く、威風堂々。 力、 先行して巨大鮫の足止めにかかった炬絵莉華の戦いぶり

騎士を彷彿させるもので。 そのたる戦いぶりたるや、 軍馬を駆っ て単騎で敵陣に投入する

とさず突入し、これを真っ向から二枚に下ろし。とびかかってくる六メートルクラスのホホジロ とびかかってくる六メー ジロザ メに速度も落

四方から同時に鈎爪でつかみかかる半魚人を、 水上バイ クを操

縦しながらのカポエラばりの逆立ち回転蹴りで蹴り落とし。 王を守る近衛のように立ちふさがる危険生物群を蹴散らしつつ、

巨大なメガロドンへと着実に迫っていく。

超一流の鬼斬りの域に達していると言って良い。 その卓越した運動能力も状況判断も、 身に帯びた超常能力も、

ていく様子はと 息もつかせず襲いかかるピンチを次から次へとすり抜け かしい。 ハリウッド映画ばりの綱渡りっぷりだ。

> しては対処が困難となる畏れがある。 手違いで取り返しがつかなくなるし、 一人の能力だけを頼りに戦うそのスタイルでは、 複数人による連携攻撃に わずかな 対

「突出するな、 エクスカリバー 孤立するぞ!」

の心配もなんのその。

か言いようがない偶然の回避が続いているばか弾丸は勇者を避けるとはよく言ったもので。 士の誘爆や相打ちも続発。 バカげた幸運とし りか 危険生物 同

「なんか、大丈夫そうっすね」 格下の相手では近づくことも許されな い と言っ たところか。

Ł, 前席のライダー。

「……そんなとこまで詩紀様並みか」

只者ではなかったというわけだ。
五ヶ瀬の坊ちゃんが連れてきただけあって、 やはり彼女たちも

の者どもに襲撃されている。背後を確認してみれば、一台遅れている水上バイクもまた深み

「かかってきなさい! 私は誰の挑戦でも受ける!」

吼え、 前席の白黒ボー ダー柄のカバーアップ姿の少女が中指を立て

「舌噛むから黙 つ て

のばし、前席の少女に飛びかかるイタチザ後席の赤黒チェックのワンピース水着の いて、 少女は無造作に右腕 た。

る光景だ。 、小さな紗也の姿はたちまち埋もれてしまう。目を覆いたくな四方から次々に飛びかかってくる鮫や半魚人の攻撃を一身に受

醒度の高い玲韻であっても、なんとなく気に掛かる程度がせいぜ識力を越えることはできない。特に鋭い樹菜や、黒姫としての覚だが、いかに彼女らであっても、この世界に住む人間の脳の認

るための犠牲である事を知ることもできない。今この世界に生き ても。輸送機の墜落が、より親しい八十余人の死と辻褄を合わせであるから、例え自分たちがそう望んで歴史を書き換えたとし る人間にとっては、 であるから、 記憶と歴史は相同であるからだ。

だ。そして彼が知る限り、八十名の死は間違いなく起こった事実にとって、世界も歴史も常に変動し続ける不連続で不安定なもの 1、憑きの竜胆大輔においてはその限りではない。彼

てぶつかり合う以上、生きるということは同時に他者を侵害する わ まっては、心優しい者はうっかり外を歩くこともできなくなる。 きれい事を言っても始まらない。限られたリソースを奪い合っ 食肉加工場の内情を知る事により、せっかくの料理の味が損な 野外を歩いているときに何匹の虫を踏みつぶしたかを知ってし憶えていないのならいい。それは幸せなことだ。 犠牲となった動物の価値をかえって貶める事もあるだろう。

自分の満足のために。 力を持って討ち倒すだけだ。親しい者達を守るために。る側だが、暴虐な魔王の存在を否定するものではない。 してそれに抵抗しようとするのも当然の為しよう。彼は抵抗す魔王が世界を掌握しようとするのも勝手だが、人々が勇者を擁 ひいては ただ、全

> のの バ幸 いにもならない。 ックアップ記憶が必要になることはなかったが……それは何い、亡くなった八十名が歴史から消し去られる事はなく、彼

を選択した。それは宇宙と自然の摂理にすぎないが、彼らが彼らは親しさだけを基準に、残すべき命と引き替えにすべ改変に関わったのは新川詩紀と七人の黒姫達。 感じれば罪になる。 き命 罪

珠坂どころか日本が、さらには地球にどれほどの悪影響を与える 六人)の黒姫と斗流の総帥に自責の念を植え付けてしまっては、ただ一人の黒姫でさえそんな具合だ。七人(彼にとっては時に か分かったものではない。 う悪循環に陥り、彼女にとっても街にとっても危険な状態だった。 た故だ。罪の意識と不安がさらにコントロールを悪化させるとい を無意識に発動し、自分が死をまき散らしている可能性に気付 は御免被る。 はじめて出会った頃、睡蓮の心は壊れかけていた。『茨の園』 個人的にも凹んだ睡蓮を見せられるの 1

れば済むことだ。 知らない方が良いことは沢山 [ある。 ただ大輔が П を つぐんで

だが、 一人にだけは、彼の知る全てを伝えた。

をも託した者。 をとった者。大輔に歴史のバックアップとともに、 全ての責任者。この作戦を発起し、あらゆる状況を整え、 語 り部の役割

五ヶ瀬七夏は経過全ての把握を断固として望 2

えられる者は彼と、 られる者は彼と、罪を知ることを望んだ七夏以外には居ない。失われた八十予の命が何の引き替えであったか。結びつけて考 同じ秘密を共有する者がいれば、 それだけで少しでも心が軽く

「なんでも、兵員輸送中のC-130が竜巻に巻かれて落ちたそ睡蓮がテンパりはじめるが、ママの方は落ち着いたもので。

るが、 して倒して倒しまくっていた事を知る新見が複雑な表情を浮かべドラゴンスレイヤーモードを発動した彼女が無意識に竜種を倒 と言わんばかりの丈司の視線を受けて肩をすくめる。 "面倒ごとは自分がかぶるからそういうことにしておいて

素直すぎる明日香は率直にそう語る。

もだいぶ確保できたんじゃない?」 鮫やらを生で見られたのも美味しかったし。麻緒の新作本のネタ 「ん。今回は結構ハードだったけど面白かった。甲冑魚やら古代

で笑う。 これは絵莉華。 麻緒が親指を立て、 ニッと歯を見せて眼鏡の奥

イなら笑ってすませられますし」 なかったのは僥倖でしたね。私達も斗流のお姫様も、「なんにせよ、これだけの面子が動いたというのに対 うのに誰も死人が : 結果オーラ

力してくれたとはいえ、身体の傷を残すのも心の傷を残すのも避と樹菜が言う。至極もっともだ。みんな思いのほか積極的に協

玲韻の無造作な発言に、皆が絶句し、場が静まり「お言葉だけど……死んでるわよ。八十人ばかり」

だものはいない筈だ。 そして考える。それぞれの知り合いには怪我人はいても、死玲韻の無造作な発言に、皆が絶句し、場が静まりかえった。 死ん

「睡蓮ママ、どこからそれを?」

しては珍しい事だが、気持ちは七夏も同じだった。切羽詰まった顔で大輔が尋ねる。常に余裕を演出したが る彼に

ママになるとかふっふふふざけたこと考えてるんじゃないでしょ「いや私のママ違うから。義理だから義理……まさか、あんたの

ってたと思うと、手放しでは喜べないわね」 「驚かせないで」 慌てて親友の無事を再確認し い、彼女の話はそこまでだった。 戦闘には完勝できたけど、一歩間違ってたら帰りにああな た紗也がため息ととも K L

言葉の前半が、皆の意見を代弁していた。 た

「麻緒さえ無事なら大差ないけど」

リバーの鞘だけある。 本当に極端だが、彼女の優先順位はぶれない。 さすが 工 ク ス カ

すべきなんだろう」 いても常に危険は存在するものだからな。我々は常に幸運に感謝「だが、芳村女史のご高説ももっともだと思う。ただ道を歩いて

目が合った七夏と大輔は、小さく頷き合う。神に、でないところが丈司らしい。

そうだ。 せるというのは、魂を持つ生命体としては普通のありよう さおりによれば、世界に干渉して自分に好都合な運命を引き寄 Ź 0)

度自由に世界の有り様を選択する事も可能だという。 れる。それは普段は無意識下に行われているが、意識してある 持つ者達であれば過去に定まった筈の歴史さえ大幅に塗り替えら しかしその規模は魂の格によって差があり、 強力な高位の魂

のだ。 剣の精としての魂を持つ黒姫達にしてもある意味で神のようなも北斗の頭の星鬼の魂を宿す詩紀はいわば人工の神だし、伝説の

武器を失い、欠けた折れた歯や鈎爪とともに海へと転げ落ちていが、少女が犬のように身体をゆすると、有害生物たちは全ての

奢な見た目によらず相当頑丈なようだ。
水着は穴だらけになっても肌には傷の一つもない いのだから、 華

るからね 「ごめーん紗也、 こういう事もあろうかと換えの水着用意してあ

「ん、問題ないわ」

そもそも、 鬼使いや鬼憑きや超常能力者 なんて連中に常識 影を求

める事自体が間違っているのだが

虚弱貧弱無知無能な常人としては命令に素直に従っておくのが正司令部のウィザードとてその片割れであるわけで、平々凡々で

田端はそう割り切って機械的に任務を遂行する事いだろう。気をもむだけ馬鹿馬鹿しい。 だし た。

は、メ 視できなくなったとみえる。 ガロド K ンの方が反転した。背後より追いすがも、絵莉華と超巨大鮫は対峙に至って る絵莉華を無いる。正確に

この時点で足止めには成功して ませる気はないようだった。 1, るのだが 絵莉華にはそれで

水上バイクに立ち乗りで黒の長剣 の背びれを見据える。 な構え、 人の背丈より高い三

な口が開 「口が開くと、そこには二十センチメートルをこえる三角RVほどもある頭が浮かび、水上バイクごと丸呑みに出 メートルをこえる三角の歯が [来そう

以外の何者でもな

剣の妖精を止めるには至らない。 まともな神経なら即座に回れ右して逃げ出 L たくなる光景だが

「当方に迎撃の用意あり!」

ドンが尖った頭を海面に突き出した。 絵莉華が叩きつけた言葉に応えるように、新 なに二匹 0 メ ガ П

「「「……オッオー」」」

同意見のようだった。 つは結構かかりそうだ、 と麻緒は感じ 絵莉華

なあ」 なん 光鷹高の安南リサ様とは。 予想外の超豪華ゲストで す

学園高等部写真部に籍を置く二年生達。記録班の腕章をつけ、カメラを手にした一 团 の生徒達は、

は誰も気付いていない。幸せなものである。 この時点で、リサを撮るともれなく心霊写真になっている事に

出さぬまま、 機材を集めた椰子の木の下に集う彼ら彼女らは、一 本音をダダ漏らし に小声で話し合う。 K

「あのヒトほんとに同い歳なのかね。大人っぽすぎ」

いよ。 「もら一つ朗報。喫茶ハニーポットの慰安旅行とぶつか 万戸屋の炬姉妹見たぜ。例によって飛成麻緒さんと一緒だまとい。というができます。「浅葱谷のサクラ姫とか三条さん見かけたって噂があるし」 2 た 緒だ みた

「写真は撮っ

ブグ ッジョブ だ

「こらこら。ダンナと娘いるでしょ。年の離れたすっごいダンデ 俺的には商工会の芳村さんが一押しだな。 \$ \$ \$

等部の高天萌衣ちゃんとかも来てるのかな?」「一年の睡蓮ちゃんはあの人の義理の娘だよ。 それはそうと、 中

「黙れペド野郎」

願の五 あ 五ヶ瀬君の水着も撮れちゃったし、ちょっと期待しちゃうわクラ姫がいるなら、聖者扇戸さんも来てるんじゃない? 念

「男もどうでもいい

さんとかもなかなか」 「ちょっと方向性が違うが、三条さんと良く一緒に V > る狩り 谷ゃ

二見美々ちゃんあたり」「そうそう、ヘンプさん ヘンプさんの妹 の麻鈴ちゃんとか、 あと万戸屋だと

「あれは年下として認められないな」「なら、うちの中等部の天叢さんとか凄くな!「年下にこだわるなお前も」 し、

などなどと、 一人大物を忘れてるな」 侃々諤々の議論に、 ふん、 と鼻を鳴らす者が い る。

「大物だって?」

ポットのお歴々と十分対抗できる気がするがね」「うちの会長様だよ。髪染めてから雰囲気変わっ たろう。 ハ =

「そこはどうでもいい。些細な問題だ」 「いや、俺が聞いた話じゃ、染めるのやめたってのが本当らしい」

「あのひと身体弱いとかでいっつもプール休んでるけど。 どの辺

が弱いのかさっぱりなのよね」

「それで写真が出てこないわけか

初のそろい踏みってか」 「詩紀様とならぶ、罵られたい美少女の双璧。金角銀角、 水着で

数分後、 彼らの期待は見事に裏切られ

「「「「ふざけんなー!!!」」」」

完全防備だった。 ら遅れてビー チに姿をみせた、 生徒会長こと南山

高の制服そのもの。 時にチャバネ呼ばわ りされるダークブラ ウンのブレ ザ - は紫城

就任するやいなや、 現実に即するよう徹底改正してみ、いかにも伝統校 してみせた彼女であったが……伝統校らしい有名無実化した校

確かにこれこそが晴蘭の常日頃からの出で立ちではあり、空港対極に位置する。南国の白い砂浜には不釣り合いきわまりない。ない喪服だった。一片の肌色も見えないという点では、水着とは さらにケープに日傘まで装備という、どこから見ても一分の隙もているばかりか、濃い色のヴェールに手袋、黒のストッキング、いまや名目上の制帽の地位さえ失ったはずのベレーを身につけ

だが、さすがにここまでは誰も予測できなかったと見え、比でもホテルでも、私服の群れの中ただ一人浮いていたものだ。

然とするばかり。

会長!」

眼鏡を掛けた男子学生は、肩をいからせ、いち早く我に返り、進み出たものがいる。

「B組の永島誉じゃないか」で畏れられる会長に詰め寄って いく。 暴力的な正論と辣腕

七夏としてはそうそうキツイことも言えない。 に無断で戦力を動かしていた上に、それを全部見透かされてい 無断で戦力を動かしていた上に、それを全部見透かされていたなんとも居丈高な感謝もあったものであるが……宗家たる詩紀

「……詩紀ちゃん、できればもう少しソフトに」

この場を借りて、ありがとうと言わせてもらうわね」 「おかげで、 実に痛快で優雅なひとときを過ごさせてもら つ た

わ

あまりソフトになってはい なかっ た。

「恐れ入ります」

「別に礼を言われる筋合いでは」

「うっす」

は関係なく、形式的に応えているだけといった様子だ。だが感情のこもらない、あるいは投げやりなものだ。相手の態度権の各チームリーダーである石丸・田端・新見の反応は、丁重 ーである石丸・田端

はあるが、 相手とは必要以上に親密にはなれないのだろう。愛想良くしろという彼ら本来の立場としては、いつ本物の鬼と化すか分からない るし、 忠誠を尽くすがゆえに命懸けで詩紀を守りはしたが、粛正部隊と 十家の中枢にある詩紀達は彼らにとって礼を尽くすべき相手で 機嫌を損ねる心配はないだろう。 状況によっては狩るべき対象にも変わりうる。斗流に まあ、詩紀もそこらへんは理解しているはずであ

あたりは心得たもので。 黒姫のうちでも詩紀や七夏と直接 0 (付き合 い が ある萌衣

「光栄です」

ろ兄の寛彰に たっこり笑ってそつなく返した。いつも思うが、 しろ、 中学生に しては人間ができている。 萌衣に

> ね 「優位を誇示する態度に包まないと満足に感謝も表せない な λ 7

それほど人間のできて いない睡蓮は、眉をし かめてそう言 い放

おくのも良いかと考えただけよ」 じゃないわ。五ヶ瀬さんがどうしてもって仰るから、恩「言っておくけど、別にこっちだってお姫様のためにや 恩を売 5 っててわけ

と、言い訳のように付け加えた。

ちかけたとき、最初から特に協力的だったのが彼女だ。そうは言うが、七夏がここ゛ハニーポット゛で黒姫秀 で黒姫達に話

与えられてしまった同士。自分の立場に重ねてしまったのだろう北斗の鬼と剣精黒姫の一角、種類は異なれど人の手に余る力を

できる。 ない。そういった意味では、詩紀とリサのウマがあったのも納あるいは、ツンデレはツンデレを知るといったところかもし んのも納得っかもしれ

ろうから。 憶えた。あの娘を相手にするのは、 ©えた。あの娘を相手にするのは、詩紀と同様にかなり疲れるだと同時に、睡蓮の相棒である竜胆大輔にはいっそうの親近感を

たのと同じよ」 「ナナに協力してくれたのなら、 それは私のため を思って行

詩紀のため、 E紀のため、と言っているもの同じだ。これはさすがに照れる。詩紀は臆面もなくそんな事を言ってのけた。七夏の行動は常に いはい、ごちそうさま」

お役に立ったのなら、 「私は見ていただけですけど……丈司さんの働きが詩紀さん達 私も嬉し い 、です」

られないのではない しも彼女自身がそれを望むならば、ビーチでの直接戦闘は避け 樒や麻鈴や黒姫達がどれほど回避に力を尽くしても。 カュ

て回避したい。 紀の特異な能力が白日の下に晒されかねない状況は、万難を排し斗流十家の一員の立場としても、七夏自身の思いとしても。詩

像に難くない。 し、彼女の立場をさらに微妙なものにする原因となりうる事は想 たならば、それを結びつけて考えるきっかけとしては十分だろう え畏怖され一目置かれている詩紀が奇妙な出来事の中心近くにい よる襲撃などと誰に想像できるはずもないだろうが……ただでさそこまでの事態には陥らずとも……彼女を崇め求める怪物達に

ないのだ。 ないだろう。だが、それで彼女まで敬遠されてしまっては意味が彼女の加護があるなら、七夏の能力とは関係なしに勝利は揺るぎ も辞さないし、 辞さないし、自分が矢面に立って皆に敬遠されても許容できる。詩紀の騎士を自認している七夏としては彼女を守って戦うこと

とけ込むことより畏れられることを望む、あるいはそう望むべきにとっては、これはある意味では望むところでなかろうか。人に紀(イコール美紀)の後退につながる。樞の名代を自認する詩紀さらに言えば、人間社会の中での孤立は、ヒトとしての新川詩 だと頑なに思いこんでいる。

気眼娘の詩紀が考えそうなことではないか。 隔離されることによりその絆はより強まる。 十分。そしてその数人が彼女と並び畏怖の対象に列せられるなら、彼女の正体を知ってなお親身でいてくれる数人がいればそれで いかにもひねくれ邪

> ない 考え過ぎかもしれない。杞憂で済めば重畳。だが楽観など出来

根拠レスの無茶な信頼にここまで完璧に応えられてしまっては、 をさおりに一任した。これは幼少時からの刷り込みによる妄信だ 遂げられるとすれば彼女以外にない。そう判断した七夏は、対策 かえって怖い。怖すぎる。 けに頼った行動だったが……やはりさおりは只者ではなかった。 ね除けつつ騒ぎを起こさずに索敵と破りますという 験を成

思えなかった。 を巡らして彼女の望みを蔑ろにしたわけだから、 そしてそれより怖いのが詩本人紀だったりする。 ただで済むとは 秘密裏に企

「命があればいいなあ」

の力を取り戻した途端、七夏が消滅しても不思議は無いのであ 彼女が能面の裏で激怒していた場合、珠坂に戻った詩紀が本 っ

今回の護衛作戦に参加した樒各チームのリーダーと黒修学旅行終了後。彼らが珠坂へ帰還して約一週間の後

はしなかったにせよ最後の最後にあらわ ってこうのたまわった。 はしなかったにせよ最後の最後にあらわれた挙げ句、薄い胸を張してその関係者を貸し切った喫茶店まで呼びつけた詩紀は、遅れ と黒姫達、そ

堪能できました。 に感謝の意を示します」 堪能できました。我、白銀珠比女命に命を捧げて戦った全ての者「大儀でした。皆の働きをもって、ただの人の子のように旅行を

「会長の事実上のブレインって噂の?」

い方は正確じゃないな」

一の事情通が言う。

る希有な人材だ」 「空気を読む以外なら何でも出来る会長殿にはブレインなんか要 あいつはむしろ緩衝材。カタブツ会長殿を妥協させられ

「そういうのは些細な問題だといっとろうが

っ、聞こえない」

皆が声を潜める中、 二人は視線も気にせず対峙する

「永島君。どうしたの、そんな怖い顔で」

誉のストレートきわまりない 物言いに、 眉をひそめた晴蘭がざ

ざっと距離をとる。

「よっしゃ、よく言った!」

「言ってやれ言ってやれ!」

小声で声援を送る者達。

ロリ

9

の悪化を反映してか、

晴蘭

の単語の選び方が明らか

に物騒

誉はひょいと肩をすくめてみせる。

ン的発言 の続く写真部員 べ 別の部員が S, たよく:、 こうでででに何の得があるよ」「あんたなんかにセクハラして俺に何の得があるよ」「それ以上近寄るようなら、性的嫌がらせと判断するけど」

しりと突っ込

「では発言の意図についてきちんと釈明なさい。 ては然るべき筋に訴えるわ」 発言の如 何によ

になる。

死ぬぞ。 「老婆心からの発言だよ。そんな格好でが、誉の方は慣れたもので、 いやマジで」 ウロウロしてると脱水で

「暑さには強いから。 心配ご無用

「熱中症を甘く見るな。汗が出ないのはむしろ危険だ。それに言うだけあって、生徒会長殿はろくすっぽ汗をふく様子もな

あんたが良くても見てる方も暑いんだって」

「そうだー !」「よく言った!」

ギャラリーの何人かが賛同の意を示す。

ぐらい脱いだらどうだ」 「泳ぐ気がないのなら水着になれとまでは言 わ λ が、 せめて上着

「……個人的事情よ。 忠告はありがたく受け取っておくけど、

やっ 誉の目配せに、背後から忍び寄っていた影が、生徒会長女史に日傘を取り落とした晴蘭が、意外にも可愛らしい声を挙げる。

飛びかかったのだ。 襲に成功せり!」 「ごめん会長さん! やったよ誉く え<u>!</u> _ } ラト ・ラトラ、

柄なゴスロリ風レース水着の娘。それぞれ片腕をとらえ、一犯人は白のワンピース水着に赤いヘアバンドのおでこタ おでこ娘と、 足をか 小

枝里子ん、 協力乙!」

らめる。

「これは何のつもり!?」

晴蘭は抗議の声を挙げるが、 っふっふっ、 しれたこと」

19

誉はわざとらしく眼鏡の位置を直し、 にやりと偽悪的な笑みを

「実力行使だ。緊急避難だから悪く思うな。一色さん、 了解ですよ」 たのむ」

せながら、殊更ゆっくりと迫る。 妙に色っぽい少女が誉の背後から顔を出し、 両手をわきわきさ

ではありませんよ」 お願いですからね。 「会長さんに含むところはありま いや別に、決して個人的に楽しんでいるわけころはありませんが、他ならぬ誉さんからの

顔を撫でる。 動けない晴蘭に必要以上に顔を寄 반 ヴェールをめくりあげて

「あら、 「ん―~っ! 永島誉っ、卑怯者っ!」 綺麗な赤い目をしてらっしゃるのね

視線を、誉は目をそらして受け流し。 身体と表情をこわばらせつつ睨み付けてくる殺気さえ籠も つ た

「男前な晴蘭さんは女の子には手を出せな 7 からな

とうそぶいてみせる。

学習もする。 何しろ、彼女には何度となく投げ飛ばされている。 い いく か げ λ

別の面倒な女をぶつけるに限る。 に最適な人材だった。 の面倒な女をぶつけるに限る。こういう場合、一色瑞星はまさならば毒をもって毒を制す。空気を読めない面倒くさい女には、男には一切の手加減無し。下手に目を合わせると呑まれる。

「一色さん! 離れなさい、今すぐ!」たぶらかそうというのかしら? 困った生徒会長さん」「この綺麗なお顔と抜群のプロポーションで、わたしの誉さん を

「それは聞けないわ。だって私に命令できるのは誉さんだけだもに対しても、瑞星は小揺るぎだにしない。 逆らう事の困難さ故「勅令」の異称を奉られた生徒会長の一喝

\$ \$ \$ \$_

でも掛かっているかのようなとろーんとした目け真っ向から視線を合わせての命令が効かない。 「……この娘、危ないわ」 は、 いや、 最初 初からか。催眠術に

「あんたが言うな」

なに せ生徒会長は、 カュ 2の新川: 妹と並ぶ危険人物だ。

えだと素直に思う。 誰が呼んだか金角銀角。派手な金髪銀髪に引っかけた上手

あるが誉にはそう感じられてならない。会長や新川妹はただそこにいるだけで危ない類だと、漠然と会長や新川妹はただそこにいるだけで危ない類だと、漠然と 漠然とで ではが

ただ、そんな会長閣下にも。天敵、 というものは確か に存在

も効きにくい。 は誉の親友三橋零の恋人にして、面白そうなことが川崎藤華は永島誉の幼なじみで、ほぼ言いなり。るわけで。 して晴蘭と目を合わせようともしない。 も効きにくい。しかも、予め誉から言い含められているのか、決好き。こういう確固たる信念(?)を持った相手には晴蘭の一喝 しかも、予め誉から言い含められている 面白そうなことが三度の飯より 九っ 十く -九枝里

手つきで撫で回されては、さしもの晴蘭も辟易するほかない。そんな二人に拘束されたうえ、まるで話の通じない相手に妙な な二人に拘束されたうえ、まるで話の通じ

掛けられては技術で破る事は困難だ。かといって力任せに振り払全身で組み付くだけの単純な拘束方法だけに、二人がかりで仕 っては二人を傷つけてしまいかねない。

九頭類にならば、もとより突破は可能だったのだ。られたが、何のことはない。魚人や蛇権はともかく、より高位のられたが、何のことはない。魚人や蛇権はともかく、より高位のられたが、何のことはない。魚人や蛇をはなる というない 自立つメガロドンを三体もぶつけてきた事により、巨体を持つ目立つメガロドンを三体もぶつけてきた事により、巨体を持つ 敵の伏兵は、聖地たる湾内にいつでも潜入できる状態を維持し頭類にならば、もとより突破は可能だったのだ。

T たと考えられる。

貴重な数分を稼ぎ出す。 覚悟の上で、 /悟の上で、黒姫最高の攻撃力を誇るレーヴァテインを引きつけ北の浜への大攻勢は大規模な陽動。まとめて焼き払われる事も 黒姫最高の攻撃力を誇るレ ンを引きつけ、

そういう作戦だったに違いない。 その間に一気に距離を詰めて、詩紀に肉薄し、 目 的を達する。

「七夏さんが新川先生をホテルに配置されていなければと思うと、 たく面目次第もありません」

後に飛成麻鈴は、五ヶ瀬七夏に詳細を報告するとともに、こう って恐縮したものだ。

指揮を全面的に委任してあっだが、七夏自身の考えはだい った麻鈴の指揮いぶ異なる。

っては神業だっ ば、 素人の七夏にと

全ての部隊の動きを図上で見せられた彼は、ただただ唸るしか つ

名参謀にしてウィザードたる彼女の本領発揮といえるのではなか個性的な能力をこうまで見事に使いこなせたというのは、名高いをぶつけるという見事な指揮ぶり。樒各チームの特性や黒姫達の 敵の動きを読み、 適材を適所に配置し、 常に相性で有利 な相手

ろう

は詩紀を楽しませるどころではないからだ。という基本方針は堅持していた。物騒な舞台裏を見せてしまって はしたが……七夏の意を汲み、詩紀のいるビーチを戦場にしな麻鈴は確かに陽動に引っかかって黒姫の全員を迎撃に繰り出

ここは麻鈴さえ欺いた敵を誉めるべきところだろう。 素人の七夏ごときに文句をつける資格はない。 少なくと

伏兵の吊り出しに一役買ったとも言えるから、怪我の功名とい結果として本拠地をがら空きに見せかけることになり、それ たところか。 っが

密裏(?)に敵を見つけ出して見事撃破に成功できたのである。彼女だからこそ、海中にはきっと敵が進入していると確信し、秘 自分の手柄とはとても言えない。 想定できるはずもなし。嫌な予感に従ってさおりに任せただけだ。 そもそも、神でも仏でも諸葛孔明でもない彼にこんな展開まで七夏にしたところで、麻鈴に誉められる程のことはしていない

つもりだ。詩紀の考えそうな事はなんとなく見当がつく。 あることだし、 ただ、七夏は一応は詩紀の彼氏と認めてもらっている立場でも 他の皆よりは彼女たちのことを少しは知っ ている

向からことのリスクや意味も承知していないはずがない。 詩紀ほどの知性の持ち主が、 自分が太平洋の

0) れるならば。詩紀にさらなる力を与え、また彼女の影響を強く受 けることは想像に難くない。詩紀が何かを強く願うなら、 は詩紀の信者なのだ。彼らがひとたび詩紀の支配域に足を踏み入 行動やその結果さえ左右する可能性が 九頭類や蛇権・魚人といった九頭竜の眷属達とて、 十分ある。 ある意味で 眷属達

来た来たキター っ!

特に盛り上がっているのがリン・ペンの双子だったりする。「モンスターパニック映画といえば、ラストは爆発が基本」

「演出かしら」

····・たぶん、

いの姿があった。 ビーチからは角度的に見えない位置に二人の

「ったく、無茶しやがって」

眼鏡の男性、陸奥十悟がぼやく。

二人であったが、本来の目的はこれだったわけだ。生徒達の監視を名目にビーチの全体が見渡せる場所に陣取った

こいつはいつもこんなだ。何でも承知の上のような顔をして、

ろくすっぽ説明がないままで他人を巻き込む。 非常識に

しかも、警告も無しに教え子達の頭越しに砲撃とは、

「無茶?」照準してからの精密攻撃だから、もほどがある。 その非難は的外れと

言わざるを得ないわ」 答えた新川さおりは、額から一角獣ばりにねじくれた光る角の

ようなものを生やしている。 ・ザー照準というわけだ。彼女の理屈によれば、先ほどの細い光線は、例えて言うならレ

だが常識的には、レーザー光線というやつはああも好き勝手に

曲がったりはしないもの。

彼女の放った光は、自ら湾内を探って海中に潜む敵を

切ることも自由自在らしい。当然のように破壊光線として熱量をあの光は五感を備えているし、ものをつかむ事も、殴ることも 伝達する事もできる。つまりは、感覚器で運動器で武器。

だけで、実際にはまるで別のものであるに違いない。十悟はその ように考えている。 に近いのではないか。人間の感覚には光線という形で認識される 誤解を承知で例えるなら、触手か触角の一種と思った方が本質

力を発揮するのだから始末におえない)。 (武器と格闘技術と気闘法だけで、なまじの鬼憑き以上の戦闘常日頃のさおりは頑なに人間としての技能しか使おうとしな

身体と頭脳を借りて顕現している状態だ。 存在だろう。斗流の奉じる北斗七鬼の一柱である揺が、さおりの……隣にいるのは新川さおりではなく、四三揺子と呼ばれている一方、今まさに角を生やして光線を操っているのであるから

れが無茶でなくて、 十悟のように鬼の力を借りるのではなく、鬼に身体を貸す。 何が無茶かといったところだ。

元来、 れはいわば寝返ったばかりの敵将に全軍を預けるに等しい。並大 確かに、その方法なら鬼の力を十全に発揮できるだろうが…… 鬼の力で鬼を滅ぼすのが斗流鬼斬りの務めであるから、こ

さの本質は、才能とは別のところにあるのではないか。 絶対にこんな真似はできないし、真似したくもない。彼女の抵の神経で出来ることではない。というか正気とは思えない。 気がしてならなかった。 彼女の強 そうい 5

「まどか! いつまでも見てないで何とかして!」だが、彼女にも頼るべき仲間はいる。

親友の名を呼ぶ。水泳で鍛えた大柄な彼女ならば、二人を傷つ

けることなく拘束を解いてくれるはずだ。

誉の表情はあくまで余裕で。

「石丸さんなら、もう我慢できないと言い残され、先にあちらに

いらっしゃっておりますが」

徒の姿。 他の生徒達を尻目に、 !の生徒達を尻目に、ものすごい勢いのクロールで泳ぎ回る女生誉の立てた親指のはるか遠方には、入念な準備運動にいそしむ

そうだ。まどかの行動はいつも単純きわまりない。「あの、図体だけの脳筋……」 あん なもの

を当てにする方がどうかしていた。

その石丸まどかを脳天気なでっかい犬に例えるなら、まとわり

意思疎通が不可能な何か。これは理屈では説得できない、 意思の疎通が困難、ではない。根本的に別の理屈に則って動く、ついてくる一色瑞星は、人間サイズの昆虫を彷彿させる。 と直感

「や、やめ!」

その何か、 晴蘭はケープを引っぱがされ

「こっちも」

きゃあ!」

ついで、手袋を奪われ

「あと、これも」

「それだけは勘弁して!」

ーとヴェールまで奪われ、 衆目に晒された白磁色の頬がた

ちまち紅潮する。

「敢えて言おう、エロであると!」「普段お堅い分、これでも超エロい!」

が連続する。 盛り上がるギャラリー。 携帯電話の内蔵カ メラのシャ ッ

っ、決してエロくなどないっ! 解散、解散っ!」

ような真っ赤な顔では、 かった。本人が慌てていては「勅令」の効果も乏しい。 晴蘭はがーっ! と抗議するが、必死で何かに耐えようとする いささか迫力に欠けると言わざるを得

「脱ぐものですか! ……う、はっ、くっ」「いい加減覚悟決めて、上着は自分で脱ぎなよ」

「会長さん?」

「どうしたの?」

異様な息の荒さにいち早く気付いた。 晴蘭と身体を接している籐華と枝里子は、彼女の身体の震えと

瑞星が僅かに手に触れただけで、全身がびくっ、と痙攣する

「身体が熱くなってるわね」 煽るような意味ありげな発言に、ギ

ャ

ラリ

の一部が入れ食

「そっ、それは性的な意味で!?」

「断じて違う! 瑞星の手が、肌の露出した部をぺたぺたと這 っひゃあ!」 1 口 る

「これは興味深い反応ですねえ」

「うひ、ひゃっ、きゃ、 あひ、ふぁ

「その辺で勘弁してやれよ、 一色さん。 それに、 趣旨を勘違

21

てるお前らも

突然宙を舞った瑞星を辛うじて受け止めた誉は下敷きになっるお前らもいい加減にしとけおわっ!! ぐふぁあ!」

「あら失礼。 これは役得」

「さっさと上からどいてくれ」

砂地で無ければ怪我していたかもしれない。それほどの勢いだっ籐華と枝里子は二回転後ろ向きにでんぐり返った程度だったが

着こんでいく。 一度に三人の少女を振り払っ た晴蘭は、 奪われ た衣服を慌てて

は目に見えて落ち着いていった。一奇妙なことに、肌を晒す範囲が減少するとともに、 奇妙なことに、肌 晴蘭の症状

「はあ、 はあ……ふう」

身体がこわばる。完全に逃走のタイミングを逸した事を、誉は息をついて顔を上げた晴蘭の視線が、誉のそれと交差した。

「なーがー Ĺ レーまー」

そして、生徒会長はことさら見せつけるように指の骨を鳴らす。「いやあ、知らなかったよ。生徒会長からは逃げられない」

「小生に何の御用でしょう? 会長閣下殿御中」

直立不動で答える誉の台詞は、丁寧ながらいささか怪しげだっ

最近歳のせいか記憶力の方にちょっと問題が」 「あー、そうでしたっけ?」いえ、そうでした今思い出しました。「これまでも何度となく言った筈よね。直射日光が苦手だって」

「素肌が日に当たると、とてもくすぐったいの。 それはもう、 臆

面もなく叫んでしまうぐらい

先刻の瑞星よろしく、 生徒会長は革手袋に包まれた両手をわ ŧ

川崎さん、九十九さん。それに、一色さん」いたずら者が涙を流して許しを請う光景、見てみたくは

うもない。 バケモ 束されては、 **されては、さして体格に優れているわけでもない誉にこれで形勢は完全に逆転。女子ばかりとはいえ三人掛 ノじみているのだ。 むしろ手加減しなければ三人を振り払える晴蘭の方が は逃れがりで よ拘

「ごめんね誉くん」

「正直興味深い」

「それも楽しみ」

ながしまほまれはなかまをよんだ!「そういう事なので覚悟なさい」

「護! 零っ!」

しかしだれもあらわれなかった!

又従兄弟の護は、肩をすくめて処置無しのポ「なんて羨ましいヤツ……そのまま地獄に堕ち 又従兄弟の護は、 べ。

「全然嬉しくねえ!」

ている地獄を考えると、少女三人に密着されていて当たってるとか当ててるとかいう問題ではない。 でもち から待っ

な 「自業自得だ。これに懲りて、 もう妙なことに枝里子を巻き込む

頼りになるのは自分だけ、と誉は覚悟を決めた剣道部の王子様、三橋零は相変わらずのクール と誉は覚悟を決めた。 つ

て対抗するのが確実だ。

れないだろう。 抜きの樒の戦力では、鬼の数体は狩れても飽和攻撃には対応しき近接護衛としては七夏自身と七瀬姉妹が当たるとして。総司令

いるという黒姫達のうち七名までの協力を得る事が出来たのはそこで、縁あって知り合った者達に助力を仰いだところ、九 だっ 九名

の共感もあったのだろうか。彼らは至って協力的だった。 のためだが、 人としてのよしみか、あるいは同じく強すぎる力を持て余す者 詩紀の親友である安南リサを呼んだのは、半分は詩紀の楽しみそれでもまだ不足だ。保険はいくらあっても十分とはいえない。 最悪の場合には脅迫という手段までも覚悟していたのだが、友 もう半分は詩紀に心を預けられる者を一人でも増や \sim

ためだ。

樞の名代としての超常能力を発揮できる。彼女が望んで得た力ででもつかないが……修学旅行の一団の内部にさえいれば、詩紀はびもつかないが……修学旅行の一団の内部にさえいれば、詩紀はその他にも、詩紀を慕いあるいは畏怖する者を一学年分確保しその他にも、詩紀を慕いあるいは畏怖する者を一学年分確保し はないとはいえ、 「 ふ う 」 少なくとも身を守るには役立つだろう。

・・、LN未コの力をもってすれば、本来の意志に反した行の言霊に抵抗できよう筈がない。積極的に使うことは滅多にない実際、総理にははっきりそう口に出されたが……一般人が七夏と罵られても甘んじて受けるしかない。

ようだろう。 動をとらせることさえ容易 いのだ。 これもまた魔王か何 カュ の為

れようと構うものか。詩紀自身に非難されたって構わ ころだ。一度ならず二度までも詩紀を絶望させてきた七夏とし は、彼女に対しては精一杯の誠意を尽くしたい。 だが、 自分が悪役になってそれで済 いむものない 5 誰に何と非難さ む しろ望む な 7

そう決意を新たにした七夏に、

「ねえ、それじゃ、 あれは?」

空を見上げた詩紀が、再び問い かける。

は湾内の海面に消えている。 光る細い糸のようなものが何本も空中に弧を描い 光る細い糸のようなものが何本も空中に弧を描いてお七夏の視野に飛び込んできたのは、不可思議な光景だ り、 2

っかかったかのように次々と動きを止める。糸は一本一本が独立して海面上を走り回って いるが、 何 かに引

「……さあ?」

すべての糸が動きを止めた次の糸の反対側は、海辺のホテルの の瞬間に、それな えてい た

なは起こっ

立て続けに海面へと突き立 \sim

糸に沿うように色とりどりの

7

チを描き、

十数本の輝く柱が

次々と起こる水蒸気爆発

そして歓声。

んだ言って、 みんな爆発が大好きなのだ。

人と浅瀬で戯れる様子を眺めて

元がなんとはなしに緩んでいるように見えなくもない。 相変わらずの仏頂面ではあるが、七夏の心眼をもってす n ば П

「ねえナナ。 さっきから、 向こうの方でドンドンわーわー 言っ

「観光地だし、

るけど」 「真っ昼間なの のに? 別の方向からも似たような音が聞こえて来花火じゃないかな」

「先ほどからどうも波が不自然だし習とかしているのかもしれないね」「この島にはアメリカ軍の基地や射 カ軍の基地や射撃場がい くつもあるか 50 演

ロ然だし、

ような」 海水に赤い カュ

色が

混じ

ってる

「塩分濃度も土壌も生態系も違うからね。 日 本海と同じとはい

ないよ」

「カチカチ山

「ん~!!! 何のことかなフフフ」詩紀の冷めた視線が突き刺さる。「カチカチ山みたいね」

「ん 〜 !?

これで押し切るのはさすがに無理がある カュ

「……ふぅん、まあいいわ」

七夏は内心胸をなで下ろすが、そんなものはおくびにも出さな

かく楽しみに来たのだ。 彼女には何も知ら ないでいてほし

詩紀を取り込む

事を諦めたとは考えられな彼女に宿る北斗七鬼の首 ない。自魁たる樞の眷属達が、

主を開放し新たに転生させるため、 詩紀の命を狙う事さえ考え

れた島など問題外 つまり本来であれば水に近づくのは自殺行為。 こんな海に囲 ま

が煮えくりかえる。 にアウトだ。一人落ち込む彼女の修学旅行だというのに彼女だけ の姿を想像するだけを珠坂に置いて だけでも ハラワーは七夏: タ 的

十家会議に諮り、斗流戦力の海外派遣および、一般人のもちろん、詩紀の安全を疎かにするわけにはいかない。であるから七夏はあくまでも海外旅行の強行を主張した。

一般人の巻き添

え二千名までの許容をとりつけた。

ついで、本来は内部粛正部隊である樒の総司令と談判。

さらに、内閣総理大臣と直接連絡を取り、人の護衛用としての戦力使用の許可を得た。 斗流十家の名のも

に真心を尽くして誠心誠意説得した。

らった。 手持ち武器ジャンボ機一杯分の手配と国外持ち出しを手配しても秘密裏に自衛隊を大規模に出撃させるのは難しいというので、

的物的損害の国庫からの全面補償も認めてもらった。また、他国での戦闘行為が起こった場合の穏健な後始末と、

こういう時に使うためにあるのではないか、無闇に振りかざすような真似は好まないが、 最後の方、 ワかざすような真似は好まないが、権力なんてものは総理は感動で涙声だったが、それも仕方なかろう。 は

だが樒だけでは不足だ。超自然的な力には、超自然的な人としての幸せのために傾いたところでそれまでの事だ。少女一人に霊的加護の全責任を背負わせている国なら、

な力をも

手段しかあるまい。かくなるうえは、卑怯者の汚名をかぶる のもやむなし。 最後の

「正直すまんかった。調子に乗りま した。 これこ の通り。 許し

「だが断る」

たつも

悔先に立たず。 りだったが、心から理解してはいなかったと誉は悟る。まやはりコイツは怒らせてはいけない。それは分かってい平謝りの誉を冷たく見据え、ヴェールの向こうで嘲ら紅 まさに後

て、阿鼻叫喚の悲鳴が南国のビーチにこだました。

想をもらした。 一部始終を見て い た白須詠人と安南リサは、 至極もっともな感

「アホだな」

「愚かですわね」

で務まるはずがない。 ねてまがりなりにも言うことを聞かせるなど、 見でしかも素人のリサにも分かる。詩紀みたいな濃い生徒達を束あの生徒会長が喧嘩を売ってはいけない相手だというのは、初 普通の神経や手腕

「だがそれがいい」

だが、双子の中坊には随分と評価が高「ナナに何かが足りないとすれば、きっ 同かった。 バ 力 っぽさ」

あはははは

詩紀の兄である篤史や、従妹のさおり。二人はまさにあの類七夏から見て、どちらの意見にも同意できるところがある。 彼らの発言は しばしば冗談じみていて本音を悟らせな る。 いの

> 導く立場の者としては真っ直ぐすぎるのは自分でも分かっている。斗流十家という名家の一員として生まれてはしまったが、人をる。だが、それらはしばしば後から何かの布石として効いてくる。し、端から見ると愚かとしか思えない一見無意味な行動が多々あし、端から見ると愚かとしか思えない一見無意味な行動が多々あ 器じゃない。

ただ、

ゃないな。愛がある気がする」 「永島君のは あまり頭が良い方法とは思えな い けど、 は

「愛ねえ」

「愛ある限り進軍せよ!」 詠人が苦笑とともに復唱する。 まあ、そう反応されるだろう。

「ガソリン尽きるまで。byジョ

ージ • パ

「混ざってる混ざってる」 リサが同じく苦笑ぎみに突っ込んだ。

「ペンペン、愛ってなあに?」

「躊躇わないことさ」

「……よく考えたら、全然解答になってませんわね」

の軽口と聞き流し したりせず、 リサ はよく考えてみたとみ

おぼえてい いますか?」

「ペンギンに愛など要らぬ」

「もしかして、 暑苦しいのがお好き?」

の布石とはあまり思えない。 るかのようにどうでもいいネタを乱発する。相変わらず、この双子は絶妙なコンビネー さすが にこ で、 これが何い カュ

先ほどからいちいち突っ込んで いる ところを見ると、

まっ は全部意味が分かっているのだろう。

「リンペン説はともかく、ナナ的にはどこらへんが愛だと?」まったく、みんなお嬢様のくせにご立派なオタクっぷりだ。

相変わらず冷静な詩紀の質問で、 ようやく話が本筋に戻ってく

いところもあるって。あれを狙ってやったのなら、きっと愛のなさっきので結構良くなったと思わない?「ああ見えて、可愛らし「尊敬はされてたけど畏れられてもいた会長さんのイメージが、

「愛でなくても、僕にとっては収穫だったよ。それに、さっきは詩紀は頬を膨らませ、少しピントのずれた答えを返す。「可愛くないとは言わないけれど」

「~っっ!!」

「なにっ!?」

に戻っている。 詠人とリサが視線を向け た瞬間 K は 既に先ほどまでの 仏頂面

数えるほどしかない。いわんやヤキモチ顔をや。それなりに長い付き合いの詠人にも、詩紀のな 「しまった、見逃した!」 詩紀の笑顔なんて記憶は

「……で、ミノリって誰?」

初耳よ

「邪気眼系クーデレがしのりんで、シャイな』んて名はこれまで聞いたことがない。もっともな疑問だった。二人の知る旧友は、 新川 詩紀。 美紀な

シャイなプチツンデレがみの

「二人で一人。身体はおんなじ」

「身も蓋もない説明ありがとう」

にぶっちゃけた。 どう説明したものかと七夏が考えている隙に、 IJ ン ~ ン が 2見事

ての私。魂が二つあるのだそうよ。それ「そんな俗っぽいものではないわ。樞の「二重人格というやつですの?」 としてる」 で、 依り代 便宜的に後者を美紀 たる私 人 ٤

なかった。 二重人格が俗っぽいかどうかは別として。 胡散臭い事は間違い

「まった、そんな魂とか非科学的 な

「幽霊が言わないように」

さり突っ込む。 おばちゃんっぽく手をぱたぱ た振って言う詠人に、 IJ サ が ば 2

「……つい忘れるんだよな」

「あなたこそ、 微妙な間からすると、本当に冗談のつもりは つくづく俗っぽい幽霊ね」 なか · つ たようだ。

「細かい設定はともかくとして。これまでそい つ見てても、 別に

二人いるように見えたこと無いんだけどな」

「そうね、 取り憑き相手の愚痴を聞き流し、素直な感想を述べる詠人。 もっとジキルでハイドで説得力でお願いし たいところ

「そりゃもっともだけど……」「設定ちがう。エンタメでもない から駄目出 しされても困るわ

困惑するリサ達を尻目に、

知っていたところで防げるものと防げな いものが ある。

は間違いなく後者であった。

きなカーブを描いて飛び出し、波打ち際を疾走、危険生物たちを横なぐりに振り抜いた長剣からは、長く尾を引く輝きの炎が大

巻き込んでいく。

ていた。 飽くなき狩猟本能と無限の食欲をもった肉食獣のごとく振る舞っ 去った炎は、それを糧に一回り大きくなり、また手近な別の生物種族も身体の硬さも大小も関係ない。一個の生物を燃やし消し と取りつく。 獲物を捕らえては喰らい、成長してはまた喰らう。

ていたし、 事実、炎の一部は十メー また別の一部は狼や猛禽のような姿を象っている。火の一部は十メートルを超えるサイズの獅子の形をとっ

「……すっげえの」

どうやって収拾するのかに興味が 「さすがは議長さん、良いところに気付いたわ」

「素晴らしい火力には素直に感心しておくとして。

個人的

K

は

鋭い質問を放ってきた生徒を誉める女教師のように、 玲韻 は

差し指をぴっと立て、

「それが一番の問題なのよ」

い尽くした炎は、 反くした炎は、やがて仲間内での喰らいあいを始めた。危険生物だけではなく小魚やプランクトンまでまたたくまに食などとぶっちゃけて、楼蘭達を不安にさせた。

がな った時には、何とも表現しがたいとてつもないキ喰った炎は喰われた炎の特徴を取り込んでいき、 キメラが出来上、最後の一体と

嫌な予感をおぼえ、問うと、

「お見込みの通り相違ございませ Ā

「やっぱりー

返ってきた答えは簡潔だった。

楼蘭がとび退いた時には、質問するまでもなく空気を読んで

案の定、膨大に膨れあがった炎のキメラは真っ直ぐに主の元へた樹菜は既に脇に退いていた。 と突進してくる。

かる。 獣の姿は崩れたが、輝きの炎自体は刃玲韻は片手平突きでこれを迎撃。 の上でより一 層に燃えさ

助けられて文句を言える立場ではない。こんなものに暴走されて一人で収拾できないような技を使ったのか。と楼蘭は呆れるが、「ごめん、錠前掛け直してもらえるかしら。片手じゃちょっと」

も事だ。

放つ赤い光も弱まる。 二人が錠前を元通り掛け直すと、輝きの炎は小さくなり、「はいはい。可及的速やかに対処させていただきますです」 0

「ありがとう」

輝きも、 きも、幻であったかのように消え去っ微笑んだ彼女が一振りすると、黒い剣 てい P まとわ た。 り 9 Į, 7 $\langle \cdot \rangle$ た

詩紀と七夏は椰子の木の木陰に並んで座時間は少し戻る。 り、 七瀬の IJ ン ~ ン が

ンスター 軍団に動揺のようなも のが走り、 進軍の速度が落ち

芳村玲韻。年齢的にはまざことないことの上ない。それの中の島の浜辺に似合わないことこの上ない。果のスーツのあちこちに金鎖と錠前を多数ぶらさげた、黒のスーツのあちこちに金鎖と錠前を多数ぶらさげた、 長身の

義理の母親にあたる。 睡蓮の

「えっ、 玲韻さん!?:」

と思ってましたよ」 「美味し いタイミングだし、 そろそろ真打 ちが登場の 頃合 1 か

けど……これは単純に相性が良くないのでしょうね 「貴女ともあろうものがどうしてここまで、樹菜は悪戯っぽい笑みを浮かべて言う。 と言いたいところだ

みない数押しの突撃を挑んでこられると、どうしても味方を巻きはめっぽう強いが、味方を守りながらの乱戦は苦手だ。損害を顧 装甲貫通力と面制圧力に優れる樹菜は、整然とした撃ち合いに

込んでしまいがちになる。 そして、 この時には九頭類達はもう再生を完了し、 進軍を再開

していた。 「一度玲瓏さんのお手並みを拝見したいと思ってまし

樹菜が一歩引いて、玲韻に持ち場を譲る。

んは日本だから、 「……加減が難しいのは議長さんと同じなのだけれどね。 そう呟きながら、ポケットから小さな鍵束を取り出は日本だから、火力も制御性も低下してるし」 黒男さ

錠前を外しにかかる。 両肩の

二番解除ってところか でしら

巨大半魚人達の吠え声に、

び前に出て剣を構え、玲韻への狙撃を防ぎに掛かる。そのあまりにも悠々とした様子に楼蘭は思わず叫び、 樹菜は 再

「こんな時こそ平常心。暴走させたら島ごと全滅確定なのだから」 聞き捨てならない発言にぎょっとする楼蘭。

「少し掛かりそうですね。とりあえず防御はおまかせで

「説明不要で助かるわ」

発生しているかのようだ。 りふわりとなびき始める。彼女の周囲にだけ局地的な上昇気流が かった光を微かに放ち始めると同時に、その髪や服の裾がふわ一つめの錠前が外れたところで、玲韻の波打つ長い黒髪が赤み

あたかも熱せられた炭が燃え上がるかのよう。 のとなり、火の粉のごとく沸き上がる細かな輝きもあいまって、続いて二つめの錠前が外れると、髪の放つ赤い光はより強いス いも

に映った黒い影が、すぐに黒い剣として実体化する。 輝きは差し上げた右手に集まり、渦巻きながら凝集。 その)内部

の髪もまたこれに呼応して赤く光り始めた。 神剣レーヴァテインが黒い刀身に赤い光を脈動させると、

「これならきっと九頭類も倒しきれるはず」

はなだれ込んで押し包めば良い筈なのだが、進めない。 距離は百メートル弱。 から輝きの炎が吹き上がるとともに、敵の進軍が 先鋒は既に波打ち際に達している。 止まる。 あと

炎と同質のものだと理解したのかもしれない。 先だって珠坂で二千に余る同胞を瞬時に蒸発させた北落師門の

たっ 美紀ちゃんになっ たよね?」

七夏は事も無げに言う。

「その水着だって、 選んだの美紀ちゃんでしょ?」

「そっ、そのココロは?」

「詩紀ちゃんならもっとシンプルな、白のワンピー反応したのはリサ達ではなく、詩紀の方だった。 スとか選ぶと

「……さすが

だけど」 「ほら、 . 詩紀ちゃ λ に戻 9 た。 正確には詩 紀八割美紀二割ぐら

「いやいやい Þ や 全然分か 5 λ か

「同じく」

「慣れればそれなりに区別できるんだな、これが」詠人とリサは、二人全く同じ仕草で縦にした手を振る。

「自分でもどちらが出ているかわからないのに、ナナ「でもさすがにナナの境地には及ばず。あれは神業」

ナナはなぜか

定できる。 ほんと、呆れたものだわ」

最後に美紀ちゃん入ったね」

顔を見合わせた詠人とリサは。

「なるほど、これが愛か」

ってないかもね」

とわけの分からないながらも納得をし。 愛だろ、愛っ!」

たぶん愛、きっと愛」 上手いぜベイビー。

リンペンはまたも古くさ いネタを披露

つも仏頂面の詩紀ちゃ

んが美紀ちゃんみたいに笑えるよう

って、僕にも区別がつかなくなる。 それが夢だよ」

るけれど」 「無謀な挑戦ね。ご苦労なこと。でもそれでこそナナって気はす七夏は大胆にもそう宣言し。

っさしずめ、今のはしぃ子の方ね詩紀にさらっと流された。

だ。状況確認乞う』 。北北東より飛行生物多数接近。そちらの真上を通るコースQよりT川、アニスチャーリー。警戒中の米軍より情報提供

にビーチに向かってるわ」 っていうか、 「アニスCチーム、 そんな感じのが押し寄せてきてる。確かに、明テーム、リーダーよりHQ。ああ、なんつうか、 明ら カュ

『HQよりアニスC。交戦許可を与える。 聖剣のお嬢ちゃんが飛び出いを与える。武器使用自由』

あ った。止める間もなく。以下、保護者に代わる」 ー、もうやっちゃってる。 L 5 ま

かないが、 く。アスカロンは既に交戦中。一端発動するとコントロールが「とりあえずそちらの流儀に合わせてゲオルギウスと名乗って アスカロンは既に交戦中。一端発動するとコ 全面的に任せておけば大丈夫だ」 効 お

ゲオルギウスこと、扇戸丈司は、樒Cチー『HQ、了解。ゲオルギウスに一任する。オー ・バーリー

見に無線機を返した。原戸ゲオルギウスこと、扇戸 IJ 新

脚が翼になっていて飛行能力に優れてはいるが、特殊「あれは正確には飛竜、ワイヴァーンと呼ばれるタイ を備える程度で知能もごく低い。 ワイヴァ 要は、 竜に従属する下等 特殊な能力とし プで す。 前

距離に近づいてきてくれればですが」 が当たれば十分ダメージが通るはず。ただし、狙って当てられるは華奢で鱗も薄い。さすがに散弾程度では心許ないが、ライフル ただの動物ですよ。空力での飛行を成し遂げるため体格

な眼をしたリーダーは、訝しげに問いかける。 立て板に水と補足する縁なし眼鏡のシャープな少年に、眠たげ

で竜に詳しいのかね」 「流石は聖者様、と言いたいところだが。キミはどうしてそこま

ろ洒落になりませんので」 「さすがに勉強しましたから ね。 竜族に不用意に関わるとい ろ

「なるほど」

なる。 なにしろ、 彼女は竜が絡んだ途端に、 まるで常識が通用 しなく

「それにしても、 ありゃ チー トすぎだ」

間を数分戻そう。

ば助かるんだが」 ボフォースの40ミリなりあればな。上空を通り過ぎようとする飛竜に、 米軍が手を貸してくれ ħ

と新見がぼやいた。

い せるべきでしょう」 いのは明らかです。予想進路を連絡した上で、「こんなところまで進入を許している時点で、 、交渉は司令部に任、彼らに動く気がな

丈司がこんなところまで優秀な参謀っ ぷりを発揮し、 善後策を

「敵はやる気ゼロ。 仕事は君らが全部やってくれる。 楽で助かる

と見定めた相手からこうも無視されるのは屈辱だろう。を反映して震えていた。斗流の武力の一端を担う者として 口を叩く新見だが、 ライフル を構える両の手は内心の無念さ は、敵

手が出しようがありませんね」 「こっちに向かってきてくれるのならまだしも、 ルー されて は

同じく冷静に言う丈司にしても、

交流もある。 浅葱谷高現生徒会長である彼は、 、紫城の生徒会とはそれ、気持ちは同じ。 ħ な りに

米軍の司令官は、部下を危険にさらさず島民を守るために、彼ら を人身御供に差し出す事を選択した事になる。 い学生達が、何も知らぬまま修学旅行を謳歌している筈だ。 飛竜達が目指して飛ぶ先では、ろくすっぽ身を守る力も持たな 駐留

待されてここにいる。 そもそも、 丈司達は殺到する水の魔物達を食 1 止めることを期

痛恨のミスだった。 だからといって、飛行する敵の存在を考慮に入 ħ な か 2 たの は

がない。 ては、持ち場を守りきっているであろう他の黒姫達に合わせる顔守るべきクイーンを奪われ、あるいは殺されるような事があっ

水の魔物、なんてくくりが恣意的なものだ。樞には九頭竜の異してしまえば、そんなプライドには何の意味も無くなる。いや、この世界そのものが、樞の統べる新たなる時代へと移行

名がある事を考え合わせるならば…… おかしく ないか

「眷属に竜が含まれていても、 何かが引っかかった。

人達であった。

対物ライフルで穴を開けた程度では意にも介さない。見た目こそ は身体がちぎれかけたところからでも見る間に元に戻ってしまう。 巨大な半魚人も十体ほど混ざっている。通常サイズの半魚人達は 5 一歩引いて続いており、彼らに付き随う従者のように見えた。 半蛸人にも巨大半魚人にも小銃弾など通らず。しかも、半蛸人 ような生き物が数十体。そして、身長五・六メートルに達する しかし、今回の主力は半魚人ならぬ鱗を備えた半蛸人とでも

たものの、 備えている。 高等生物らしく見えるが、プラナリアどころではない再生能力を 、ものの、かろうじて敵味方を選り分ける時間を稼いだに過ぎな樹菜が残り少ないCKEMの一斉射撃を行って半蛸人達を叩い

が……残念ながらこの辺りには配備されていないようだった。 の破壊力をピンポイントに叩き込み粉々に吹き飛ばせるのだろう かった。 そこで彼女は、超大型熱圧力爆弾を多数落として一面を吹き飛 徹甲弾系であっ もう三十 石なみ 5

ば しいだろう。 古文書の伝える蛸頭の九頭類どもがどれほどの超再生力を備えず、というイチかバチかの策に出ようとしている。 いても、小さな肉片にまで分解されては 短時間で元に戻る事は

「あの痛いやつを信用するのか?」

魂が覚えているのかしら。それに……」 て話ね。確かに、記憶にはないけど、私にはそれを確信できるの。 「私たちは以前にも竜胆さんの記憶からサル ~ |-- ジされて いる 2

たん言葉を切った樹菜が

と水を向けてきたので、 ーラが 一緒に残ったのも、 そのつも りなんでしょ?」

だ 「あんた一人きりでバカでか い爆弾が呼べる とは思えな

自慢ではないが、楼蘭はわりと察しは良い方だ。

だからこそ、明日香には丈司、樹菜には楼蘭、というわけだ。相応の使い手に当たる触媒を要求するからだろう事は見当が、相応の使い手に当たる触媒を要求するからだろう事は見当が、 の精としての魂を持つ彼女たちが大きな力を発揮するためには、 樹菜たち黒姫が相性の良い『相棒』を本能的に求め る 0 は、剣 つく。

「バッテリー、要るんでしょ?」

静さを取り戻す。 違う違う、これはアレ。ただの吊り橋効果、と言い聞かにっこり微笑む黒髪の美少女に、一瞬どきりとさせられ「ローラのそういうところ、愛してます」 させて冷

ない われながら良い感じに錯乱している、「倒錯するならアニキだけにしとけ。い と楼蘭 や、アニキもまずいか」 は苦笑 せざるをえ

「……信じるよ」

こうなったらもう、やるしかあるま

「あの中二病男じゃなく、じゅらを、だけどね

発動したらすぐに走って。私もすぐに追いかけるから」 られたらそうもいかない。 「ありがと。頑丈な私一人ならなんとでもなるけど、ロ ……結局死亡フラグ立ててるわよ、議長さん」そこまで言ったところで、背後から声が掛かっ モノはなるべく高空から落とすか た ラ 50

「……結局死亡フラグ立ててるわよ、

かなり押されてるんじゃないか?」

ちに手ぇ貸す?」

麻鈴は双眼鏡を回そうとする睡蓮を制止した。いえ、湾口を確実に守っていてください」

に殲滅できますよ」 予備兵力を投入してきます。ひとところに集まったところを一気 「ここが勝負の勘所です。北の浜が抜けると判断すれば、きっと

どこかに二言三言通信する

「あんた、わざと負けるように仕向けてるって言うのか?」

「はい」

大輔の訝しげな問いを、通信を終えた麻鈴は事も無げに肯定し

焚きつけ扱いってのは誉められたもんじゃないわね」 「魔法少女さん、 諸葛孔明でも気取ってるようだけど、 人の命を

さすがの睡蓮の口調にも非難が籠もるが、

「そのための竜胆さんです」

放って憚らない。 ツインテー ルに黒いとんがり帽子の少女は、 大胆にもそう言

荒技も荒技。チートの部類だ。 も、大輔が各自のプロフィールを憶えていれば取り返しがつく。ことにする。もし敵方の強力な魔物によって上書きされたとして 黒姫の力を総動員して歴史を上書きし、 戦死の事実を無 カュ った

くかもわからない方法に賭けるってのか」「自分で言うのも何だが、俺みたいな中二病を信じて、 上手く行

ころかしら」

「個人的に投機的な作戦は好みではないんですが、 有効なのは間

それに司令官も承知の上です」

「司令官、あんたじゃないの?」

「とんでもない。私はあくまでも軍師役を自認してますから」 麻鈴は悪戯っぽい笑みを浮かべた。

「私もみんなと同じ。 あの人の心意気に動かされただけ」

を目の前にしながら、遥か遠い日本の兄に話しかけてい 自分が時 もちろん、 ・ナは、並みをかき分けて迫り来る危険な海生生物たちの大攻勢 内容はいつもの定時連絡ではない。 を稼ぐと宣言し、砂浜に残 3

フォ| さい。決して中身は見ないで下さいね」 段ボール箱はそのまま万戸屋の飛成麻緒さんという方に渡して下 フォーマットして、さらに物理的に破壊して下さい。押し入れの「もし私が帰らなかったら、私の部屋のハードディスクを完全に

「ローラも身辺整理はしっかりしておいた方が良いわよ」 返事を待たずに携帯電話を切り、電源も落としてしまう。

「大きなお世話だ」 じゅらの奇矯な行動には慣れたつもりだったが、

2

ようだ。 「ううん。今のは死亡フラグの逆、いわば生存フラグと言っ 「この状況でさらに死亡フラグ立ててどうするよ」

覆われた生物を先鋒として押し立ててきた。が、 北の沖から侵攻をはかる生物群は、これまでは硬く分厚い殻に あくまでも主戦

まさか、そこまで考えてここに彼らを配置したの か。 あ の少女

丈司の傍らに立つ、長身のポニーテール娘のスイ「それでは、会長さんに成り代わりまして、私が」

わ ったのが分かった。 ッチが切り替

……彼女佐倉明日香はその身のうちに一本の聖剣を備えている。を着てくるような、よく言えば純朴、悪く言えば抜けた娘だが 『竜殺し』モードを発動、冷静沈着にこれを屠る。 素がない。 剣としての彼女は自動的で自律的だ。ひとたび竜を感知するや、 南の島というだけで何も考えずに水着(しかもスクール水着)

今回もまた、同様だった。

ように宙に舞い上がる。 さな木の枝をしならせたその反動だけで、 彼女を敵と認めた飛竜達がこちらに向かってくると、手近の小な曲線を描いて飛び、一投ごとに数頭の飛竜を一度に撃ち落とす。 まずは、落ちていた小石を投擲。衝撃波をまとった弾丸は絶妙 明日香は放たれた矢の

……なんと、まともな飛行手段もなしに空中戦を始めてし に宙を舞い、飛竜を踏台にさらに跳び、また別の飛竜を蹴り払い 高度の優位を確保した黒髪の少女は、どこからともなく取り出 ただ竜という竜を殺して殺して滅ぼす、そのためだけに特化し た巨大な黒い両刃剣の腹で飛竜をなぐりつけ、 その反動でさら まった。

目的のために限っては、彼女は物理法則の改竄さえも行いうる。新見がチートと称したのは的を射ている。こと竜を倒すという 普段の天然娘に復帰するのが常だ。 目の前のすべての竜を狩り尽くしたところで、 彼女は

> たる大剣を未だ手放していない。戦闘体勢。 が、飛竜の全てを叩き落として着地した明日香 は 彼女の象徴

「まだ居るんだな?」

「はい」

もあるが、その形態は生物でしかありえなかった。 青、緑の三つの飛行物体。それぞれのサイズは大型の戦闘機ほど単刀直入な質問に簡潔に答えた明日香の見つめる先には、赤、

炎や光弾を生成する声帯。飛竜とは格の違う、 物学の枠を越えた生命体。 大気ではなくエーテルをはらんで飛ぶ翼。呼吸運動で呪を為し 通常の物理学・

今度こそ紛れもない、本物の竜だった。

「これはさすがに支援が必要だな。新見さん?」

て国立博物館に置かれているのはレプリカでこちらが本物とか、丈司は師からの借り物である童子切安綱を抜刀した。国宝と っていたが、真偽の程は定かではない。

「掛かってきてさえくれれば戦いようもあるってもんだ」 聖者様。仰せのままに。お前ら、分か ったな?」

「十分引きつけて呪符を叩き込んでやるっす」

「人間サマを舐めるなよ、トカゲども」

なか 強敵との戦い 聖剣の化身とはいえ、少女一人に戦いを任せることは良しとし いったのだろう。新見の部下達もまたそれぞれに気勢を挙げ、 へ自らを奮い立たせた。

準備らしい準備もなしにそんな大魔術が可能かどう かは別とし

偶然とは思えぬタイミ

ングで落下した三つの隕石により、

27

軍事的には全滅と言って良い。 あるいは活動不可能なまでのダメージを負った。この消耗は浜辺に迫っていた巨大ヤシガニモドキのうち約半数が撃ち殺さ

を敷いた。 は動けるヤシガニモドキを再編して浜から距離をとり、改事実、組織だった戦闘は不可能となり、生き残った半魚 改めて陣 人ども

むことは自殺行為だ。だが、勝利条件は撃退であって殲滅ではな相手のホームグラウンドが水中である以上、こちらから攻め込 膠着状態はむしろこちらの望むところである。

丸はそこまで楽観的にはなれなかった。 ここでようやく一息つけた樒Aチームだが、リー ダーである石

を回転させる。

お 深みの者どもの盟主資格保持者が居るビーチは湾奥に位置して

切るか。選択肢としてはそんなところだろう。 浜を回り込むか。さもなくば、南の川から上陸して市街地を突っ るか、あるいは北のビーチ(すなわちここだ!)から上陸して砂もせぬほどのとてつもない怪物を突入させるか、陸地を飛び越え 海生生物達が彼女にアプローチするには、『茨の園』をもり、湾口は『茨の園』にて封じられている。 のと

「おいでなすったぞ」 ならば、最も容易く大群を送り込めるここを諦める理由 は な

魚人達が突撃の先頭に押し立ててきたのは、見たこともない 魚

何十匹も、肉のついたがっしりとしたヒレでもって遠浅の砂底をそこらの鮫などよりよほど迫力のあるコワモテっぷりだ。それが人を丸呑みできるサイズの大きな口には数本の板状の牙が並び。魚、というのが正しいのかはわからない。全長十メートル以上

出てきそうな光景だった。 這い進んでくる。ここを乗り切ったとしても、きっと一生涯夢に

生えた無数のトゲを打ち出しての遠距離攻撃さえ行ってくる始末 た。明らかに魔術的な防御を備えている。そればかりか、ヒレに った。そこで今回は虎の子の呪術強化弾の使用さえ許可し通常兵器でヤシガニ(仮)の殻を貫くのは容易いことで ر ا ا 大口の怖魚 ん、石丸さーん!」 (仮)の防御力はヤシガニ(仮)を遥かに上回っていで今回は虎の子の呪術強化弾の使用さえ許可したが、でヤシガニ(仮)の殻を貫くのは容易いことではなかでヤシガニ(仮)の殻を貫くのは容易いことではなか

パ ライフルを放ちながら、使えない花屋娘を叱りとばしつつ、 ー子うるさい! 口より手を動かせと何度言えと!」

るか。しかもあれは危険すぎる。たまたま運が良かっただけで、倒せたに過ぎなかった。より頑丈な怖魚(仮)にどこまで通用す あの容赦ない隕石の打撃でさえ、ヤシガニ(仮)の半数を打 7

出来るとは思えない。 それに、いかな大魔法使い殿とて、*味方を巻き込まないという保証はない。 あんな術をそうそう連

だけ。赤枝の巫女とはいっても能力を戦闘に使えるとは限らな赤枝千羽を連れてきたのは失敗だった。ただ素人を巻き込ん「全然効いてないですよー!」なんですか、あの怖い顔のー! 丸の落ち度だ。この娘だけでも安全に後送できるように、 し、それは千羽の責任ではない。前もって十分確認しなかった石 司令部 い だ

「恐ら人」 のダンクルの骨」 ルオステウス=テレリ を送ってもらって……

「うぉっ!」

石丸の背後で発言した 0 は セ 3 П ング の黒髪をシニ \exists ン 二 9

械に過ぎない事を否応なしに感じさせる。

、士の一人が恐る恐る剣を手に取り。

ま いには、指揮官の少佐までが剣を握っていた。た別の兵士が、引き寄せられるように剣をつかみ。

先鋒、承ります! 続いて!!」ついには、指揮官の少佐までが剣を握

ヤシガニ(仮)の鋏を落とし、頑丈な殻を豆腐かバターでも切るうに回転し、一度に四体の半魚人を胴切りにして屠った。ついで疾風の速度で敵陣に飛び込んだ萌衣がフィギュアスケートのよ ように切り裂く。 で

発揮している。 剣も少女も、 その華奢な見た目からは想像もつかない破壊力を

れを振るい、 誰も彼も、自らの果たすべき役割を理解していた。たを振るい、魚人やヤシガニ(仮)を斬り倒していく そして、 海兵達も、 脳裏に響く剣の声に突き動かされるままそ (仮)を斬り倒していく。

動きの先読みを容易とする。 いて果てる。自然、剣の垣は危険生物たちの行動範囲を制限し、一方、少しでも剣に触れた魚人は自ら喉を突き、あるいは腹を

走って、 そこで反転。突撃」

ように素早く滑らかに動き、巧みに敵軍の後背を突 指揮者よろしく少女の振る剣に反応し、軍隊は一つの生き物 0

「一撃入れてそのまま駆け抜ける!」

ぬ連携で怪物達を駆逐していく。胸の空くような光景だった。小さな勝利の女神に率いられた百戦錬磨の兵士達が、一糸乱れ w。海兵隊の協力を得て、迂回をはかっていた別働上陸した危険生物群は一体残らず殲滅された。

> より莫耶。 そのまま第二陣を警戒され た

にしている。 大な古代鮫は、 倒 しきれ X までも絵莉華達と樒B チ ムが

どめ 飛行竜軍団 を刺されている。 は明日香に片端 から叩き落とされ、 樒 C チ ムに

最短距離となる湾口はといえば、睡蓮の茶の園川からの迂回路は、萌衣に率いられた海兵隊が 面で封印され が抑えている。 7 V

千羽をかばって重傷を負い、 石丸もまた、半魚人の一体が撃ち込んできたロケットの 樒Aチームのうち、 この状況で、 うち、満足に戦える者は半数を割り、り危険生物群は北の浜に波状攻撃を仕掛け 戦線を離脱していた。 破片 É きた。 ダ かしの]

は滑走路貫通爆弾まで投入し、遠浅の砂浜と珊鮫や魚竜やクラゲや亀や蟹やその他を蹴散らし したが…… 樹菜はどこからともなく呼び出した兵器で、 遠浅の砂浜と珊瑚礁を散 し続けた。 ヤシガニ しま しまいに (仮)や

次から次へと押し寄せる危険生物群を追い払 熱圧力爆弾までは使うわけにはいかず、仲間しかし、味方や自分までも巻き込みかねな いきれなく の死体を踏み越えて し、 クラスタ な 爆弾 て

「彼らはようやく主攻を定めたようです 戦況を観察していた麻鈴が、 悠長な口 ね 調で言う。

されていた予備兵力が適切なタイミ えば現金なようにも感じられるが、こちらも結果論としては温存 ングでに投入されたことにな

訓練として少数精鋭でのヘリボーン作戦をとった結果……敵を侮知事の要請により観光産業への影響を配慮、表向きは緊急展開 たツケは現場の兵士が払うことになった。

T川の岸辺は、たちまち阿鼻叫喚の地獄となる。

きたのか、銃器さえ扱う。 る鱗を備え、人間並みの知恵を持ち、しかもどこから手に入れて半魚人は人よりはるかに力が強く、銃弾にもある程度なら耐え

十分とは言えなかったのだ。 た約二百の半魚人に対し、手持ち武装のみの海兵隊一個中隊ではを動トーチカとも言える巨大ヤシガニ数十体(仮)を引き連れ

「そこの子供! 近づくな!」

- ラー服に同色のスカートを身につけた小柄な少女だった。戦闘真っ最中の制限区域に迷い込んできたのは、半袖の囲 長い黒髪をツインテールに結った少女は制止に耳を貸さず、 黒の ア セ

ジア人特有の曖昧な笑顔のまま近づいてくる。

「ここは危険だ!」

たのだ。 く、歩哨の兵が何人も配置されていたはずだ。彼らは何をしてい、KEEP OUTのテープで隔離されているとかの問題ではな

兵隊員が倒れている。しかも、明らかに戦闘中。 敵は謎の半魚人。 既に五十人もの海

陸軍のチキンどもならとうの昔に敗走しているところだ。 無く

> 既に正気ではないのか。 くるなど、ひょっとして状況を理解できていないのか? いや訓練を受けた兵士でも逃げ出すような戦場に無手で入り込ん 子も黙る海兵だからこそ、 辛うじて保っているという状況 で

「デイヴ、あの娘を保護して脱出しろ」

ころまで脱出します」 「イエス・サー -! デイ ヴ・スミス伍長、娘を保護して安全な

本の両刃剣。となると、半魚人どもと戦うつもりなのか。 少女の両手にはいつの間にか武器が握られている。黒と白の二部下に指示を出し、娘に視線を戻した指揮官は目を疑った。

きるとは思えなかった。ったところで、銃弾でも容易く致命傷を受けない半魚人に対抗で しかし彼女の武器はいかにも細く頼りない。相当の達人が振

だが、

明瞭な英語で少女がそう宣言するやいなや。「不肖高天萌衣。これより海兵隊を援護しまれ ます」

かしこに突き立った黒と白の剣はあたかも無数の墓標のごとく、かしこに突き立った黒と白の剣はあたかも無数の墓標のごとく、腰きする間に、景色は一変していた。地面、岩、樹の幹。そこ

あるいは垣根のごとし。

ており、鈍い赤に光っていた。な、陶磁器じみた白の剣には水の流れのような紋様が彫り込まれ よるものと確信できる。黒曜石じみた黒の剣にはひび割れのよう意匠は一つ一つ少しずつ異なるが、どれもこれも同じ作り手に

分たちが手にしている銃器が、ただ命を奪うだけの無味乾燥な機なんとも美しく、同時に神々しさと禍々さをも感じさせる。自

まとめた小柄な少女だった。

ちだっ 完全装備。 3 た。南の島の砂浜という場所にはともかく、鉄火場には似 オ。おでこに載せたサングラス、シュノーケルに浮き輪。赤な蝶のワンポイントの入った黒のビキニに、同色のフリ 海で遊ぶ気満々と全身でアピールするような出で立

ル

合わないことこの上ない。 左手に持った両刃の黒い長剣だけが異彩を放って

人形じみた容姿の少女は、 空をつかむような仕草で右手を差し

が化石になるのは願い下げ」「生け捕りにしたら古生物学者が泣い て喜びそうね。 でもこちら

彼女に呼応するかのように、一ダースにも余る細長い物体がわ

た頭に命中し、そのまま尾まで貫いて胴体をミンチに変えた。割って飛び、海底へと突き刺さる。一部は怖魚(仮)の装甲され 「やった!」 少女が手を打ち振るや、それらは尾部から炎を吐きつつ水面を

く歯が立たなかった相手が一撃で撃破されたのだ。石丸の部下達から歓声が上がる。なにせ、手持ち なにせ、手持ちの武器では全

じき飛ばされる。 (仮)が粉砕されると同時に、 隊列の乱れた上陸部隊に対し、 何十もの半魚人が衝撃だけでは続いて第二射。またも数体の怖

口 ケット推進の徹甲弾、炸薬を持たない超高速ミサそれを成し遂げたのは魔術ではない。運動エネル 召喚こそは超常的な手段であるが、 最終的 ミサイルと言って ^Kルギーミサイル。 には単純に潤 ル。

> なる。 沢な物理的 エネル ギーが、魔術強 化された生体装甲を凌い だ事に

「へえ、樒の頭ともなると詳しいんです

「『弾薬庫の門』……あんたがデュランダルか」

話を続けながらの第三射。

れない。 で効率は良くないが、それでも確実に深みのモノどもを足止め、火器管制が行えないため大体の見当で打ち込んでいるだけな 戦力を削り取っていく。精度という点では隕石より実用的かもし 0

「失礼。元子での麻鈴から言われて接護にきたわ。私は魚人達に攻撃を加えて海へと追い返しに掛かっていた。良く訓練された部下達は石丸の命令を待たず、浮き足 浮き足だった半

こちらは三条樹菜」 私は狩谷楼芸

ジジーンズという真っ当な(?)、 「初めまして。わたし、赤枝千羽です」 出で立ちだ。

もう一人、長身の少女が進み出る。こちらはT

ャ

ツにダメー

「あ、こりゃどうも」

も、喫茶店か花屋の店電がおりますいですったのでは、大学のでいるより全然空気が読めてない。こんなところでドンパチやっているよりの更好なたいなタイプだ、というのが楼蘭の感じた第一印象だ。サーサーを表現られ も、喫茶店か花屋の店員がお似合いだろう。 いかにも緩そうな娘に握手を求められ、なんとなく応える。

た目にそぐわず掛け値無しのバケモノだ。岩さえ断ち切った伝説それはお人形じみた樹菜とて同じ事なのだが、楼蘭の相棒は見 ら取 すら無造作に召喚するというデタラメっぷり。 の剣の力をその身に宿しているばかりか、その名にちなんだ兵器 り寄せているかなど、 考えたくもない。 あれを

に徹するんで、 やって下さ 頑丈なもの相手に 「富樫・虎丸ポジションですね」「アテにしないように。くれぐれも念のため」でい。あ、一般人の私はマネージャーとして解説役义なもの相手にはめっぽう強いんで。上手いこと使

「分かります。

·癖のある黒髪の少女。こてこてのゴスロリファッション太い三脚で据え付けられた大型の双眼鏡を覗いているのtをとる司令部が置かれ、数十名がひしめいていた。島の最高峰、R山の山頂付近の展望エリアには今回の作 戦 0 指

まくっている。 が浮き

つ

小柄な少女は特徴的な吊り目で虚空を見据え、「私にサービスシーンを期待しても無駄だからね 釘を刺すように

「誰に言ってるんだ、フレア?」

「言っとかなきゃならないような気がしたのよ」 傍らに立つ、どこから見ても平凡な容姿の少年が声を掛けた。

快そうに言う。 自分の行動の理由が分からず、 首をかしげながら É, 少 女は不

カュ から覗いているのを、魂が感知しているんだろうな」「分かるよ。俺にも時々ある。おそらく魔王のヤツが グ IJ マ

エ

「はいはい中二病乙」

フレア、こと芳村睡蓮 は、 整っ た顔に嘲笑を浮か ~; 8 んどく

見た目によらずかわ いげの ない態度だが、 少年、 竜胆大輔は意

> にも介さない。彼女が無愛想なのはいつものことだし、 らばお嬢様に相応しい態度もとれる。 必要とあ

都合であった。 睡蓮は双眼鏡での監視に戻る。別にこれを予想したばお嬢様に相応しい負担。 、るたのは! にわけでは, 好な

「私らの苦労も知らず、

るように言う。 修学旅行生の集まるビ ヒーチに双眼鏡を向けた睡蓮は、いい気なものね。お姫様方は」

は睡蓮さんの双肩にかかっているんですから」られるというというというというというというというにはいるのです。白銀珠比女命一人の安全の問題じゃないんです。「……いくら腹立たしくても、ビーチを誤爆した「……いく チを誤爆しないでくださ 人間世界の運命 ね

に戻りますよ」 「へいへい。ダインスレイフよりウィザード、 これより封鎖作業

双眼鏡の倍率を落とし、T湾の湾口部に配置さて自分の役割は理解しているつもりだ。二つ年下の魔女っ娘に論すように言われるまで され い。 睡蓮

もな

が視界にはいるようにする。 双眼鏡の倍率を落とし、 た 四 5 つのブイ

られ、 入った生物はことごとく死滅する。 ピ | 生命体の出入りが禁じられている。 チのあるT湾は現在、睡蓮の能力 炭 正確に の園」によ は 工 よって IJ Ź 内 封 17

ば彼女に危害を加えようとする生物を死に追いやる点にれは呪われた剣としての彼女の力の顕現であり、 構を担っている。 やる自 通常であ 動的防 御

さすがは伝説の魔術師の名を受け継ぐだけの事はあるといするというのは、ウィザードこと飛成麻鈴のアイディアだ。光学機器を用いて視線を介して力を投影し、遠距離攻撃に ノイディアだ。 遠距離攻撃に転³ 用

つ た

して働くが、実際には歴史そのものを改変している場合があるば世界に干渉しているという。それは見た目には並外れた幸運彼女ら黒姫や新川の姫様のような強力な魂の持ち主は、しば だそうだ。

0)

ことにされるのは、)とにされるのは、世界から存在そのものを消それが本当であれば恐ろしいことだ。既に死 しん 去られてし れま る事 いる

できるという。 し、全面的に信用しているわけでもないが……大感知できない睡蓮には中二病の妄想と紙一重に 大輔は 八輔は改聞 こえな 変を実感

中の役立たずのメモリを引っこ抜くから の歴史を知らぬ者には不可能だ。つまり、麻鈴歴史を変える力を持つ者にも、書き戻す力は 「ふっかつのしょが消えたなんて言おうものなら、 「ふっかつのしょが消えたなんて言おうものなら、その頭蓋骨のーブ用のバックアップメモリーの役割を割り当てたというわけだ。 ね 、麻鈴は大輔にデータ す力はない。書き換る ・タセ え前

ぜい努力する」

この直後。 米軍が 出撃したとの報が司 令部 へとも たらされ

偶然か狙ってかは分からないが、結果的には陽動作戦竜との戦闘に釘付けになっている間にT川を遡って上陸 偶然か狙ってかは分からないが、 の小さな半魚人達 は、本来は河川 り込んだ。 0 · 格 C して とな チ いた。

が、T川から詩紀達のいるビーチに向彼らは見事にビーチの後背に回り込んだ る事になる。そこで、 駐留米軍の海兵隊が動い からに は市街 た。 地を通過す

に危険が迫る危険性が出てきた途端に腰が軽く

なっ

たと

31

30

の突入はかなわない。 であるから、成体の鯨かそれに匹敵する生物でもなければ湾内 :が上手いこと言えと)、睡蓮の力の及ばぬほど強い生命体には強力な能力ではあるが、時にマカニト呼ばわりされるように(だ「……ったく、 わたしらを顎で使うなんて恐ろしいガキよね」 酒吞童子級の鬼ですら触れずに殺してしまえるの \sim

大丈夫だろう。 ;ないが、麻緒と愉快な仲間達が交戦中と言うから任せて島の南西沖に現れたメガロドンなら茨の園を突破できる お か かりてし

を回避するためにも、力をコントまた、敵味方が混在している場 で観察し続ける必要があった。 ントロールできる睡蓮自身が双眼鏡る場所に対しては使いにくい。誤爆

トが紛れ込むか分かったものではない。監視というのは簡単そうている人間も船影もない。とはいえ、いつ何時サーファーやボー幸い今のところ、湾内・湾外とも封鎖エリアにまで近寄ってき に見えて、退屈かつ神経のすり減る作業だ。 * 監視というのいこ何時サー

「仕事しなさいよ大輔!」大輔の大あくびに、睡港 睡蓮がキレ たのももっともと言えよ

彼に与えられた使命は、 作戦に参加してい . る全員 の情報 0) 把握

く非合法に!)集めてきた情報はスマー 大輔はそれを暗記するように言われている。 集めてきた情報はスマートフォンに入力されてお生育歴。その他諸々、麻鈴がどこからか(おそら

よく分かる。ドリフトによる世界の書き換え対策だ。知らぬ者にとってはまるで意味不明だが、睡蓮にはな 睡蓮には麻鈴 の意図